

調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査内容(教科に関する調査)

小学校：国語A・算数A(主として「知識」に関する問題) 国語B・算数B(主として「活用」に関する問題)
 中学校：国語A・数学A(主として「知識」に関する問題) 国語B・数学B(主として「活用」に関する問題)

(3) 調査対象

小学校第6学年・特別支援学校小学部第6学年(大阪府：1,018校 79,667人)
 中学校第3学年・中等教育学校第3学年・特別支援学校中学部第3学年(大阪府：461校 68,218人)

学校行事等で後日実施した学校は、全体集計に含まない。

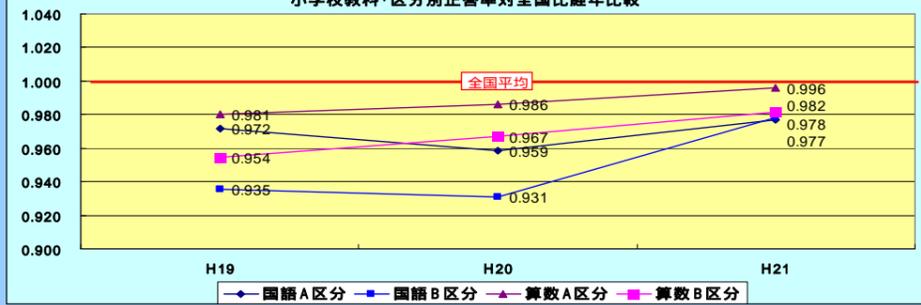
平成21年度調査及び結果の特徴

- ◆21年度調査の特徴としては、20年度と比べ、設問の数や問題文の分量を減らすなどの工夫が行われたため、全国の状況として、解答時間が十分でなかった児童生徒の割合が減少している。
- ◆21年度調査と20年度調査との平均正答率による単純な比較はできないが、20年度調査と比べ、ほとんどの教科で平均正答率が高くなっている。
- ◆過去3回の調査からは、以下のような課題が明らかになった。
 [小学校国語] 自分の見聞や体験に基づいて考えを書くことは比較的できるが、資料(図表・グラフなど)から情報を読み取り、与えられた条件に沿って事実や考えを書くことに課題がある。
 [小学校算数] 与えられた複数の条件を整理して、すべての条件を満たす結論を導き出すことに課題がある。
 [中学校国語] 文章や資料を読んで、示された条件に合った表現で書くことに課題がある。
 [中学校数学] 日常的な事柄を、一次関数の問題としてとらえ、判断する方法を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
 (文部科学省 調査結果のポイントより)

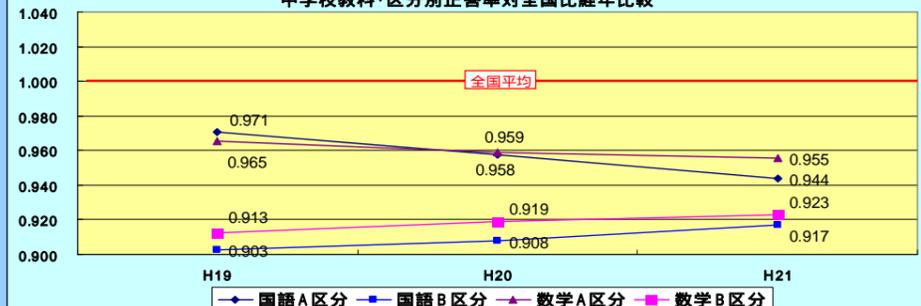
校種・教科・区分別正答率比較・対全国比経年比較

		H19			H20			H21		
		大阪府	全国	大阪府-全国	大阪府	全国	大阪府-全国	大阪府	全国	大阪府-全国
小国	A区分	79.4	81.7	-2.3	62.7	65.4	-2.7	68.3	69.9	-1.6
	B区分	58.0	62.0	-4.0	47.0	50.5	-3.5	49.4	50.5	-1.1
小算	A区分	80.5	82.1	-1.6	71.2	72.2	-1.0	78.4	78.7	-0.3
	B区分	60.7	63.6	-2.9	49.9	51.6	-1.7	53.8	54.8	-1.0
中国	A区分	79.2	81.6	-2.4	70.5	73.6	-3.1	72.7	77.0	-4.3
	B区分	65.0	72.0	-7.0	55.2	60.8	-5.6	68.3	74.5	-6.2
中数	A区分	69.4	71.9	-2.5	60.5	63.1	-2.6	59.9	62.7	-2.8
	B区分	55.3	60.6	-5.3	45.2	49.2	-4.0	52.5	56.9	-4.4

小学校教科・区分別正答率対全国比経年比較

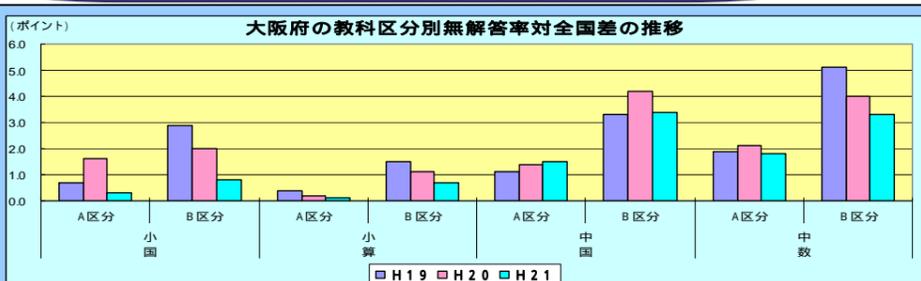


中学校教科・区分別正答率対全国比経年比較



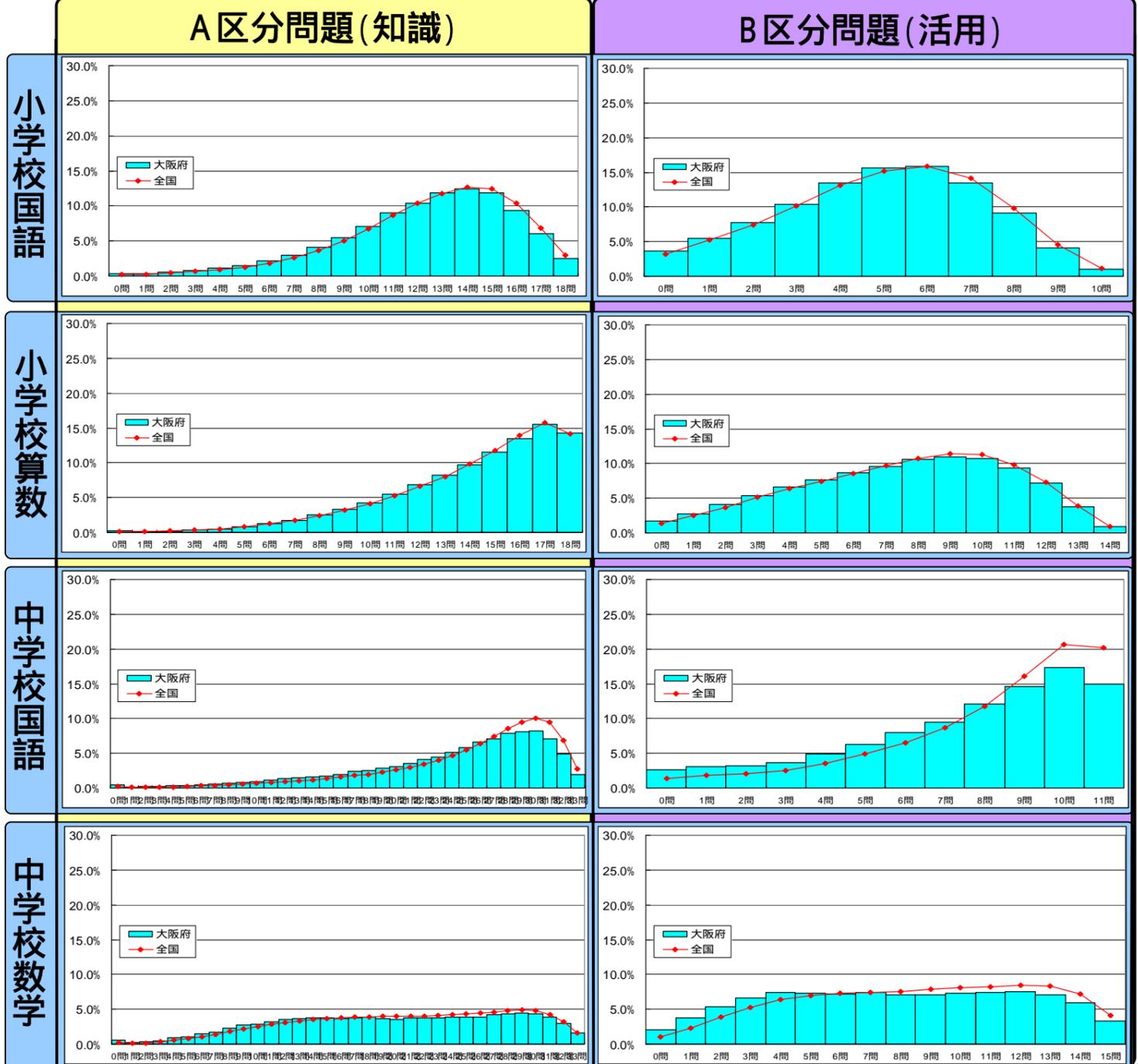
全国平均正答率を1とした場合の大阪府の正答率比について、3年間の推移を見たもの

校種・教科・区分別無解答率対全国差経年比較



大阪府平均無解答率 - 全国平均無解答率の結果について3年間の推移を見たもの

正答数分布(横軸:正答数・縦軸:割合)



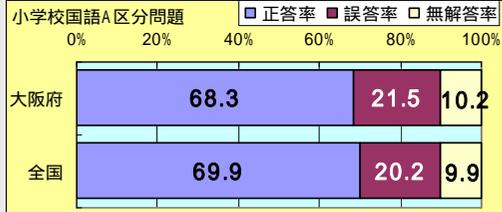
小学校国語 A区分問題（「知識」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率は68.3%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる

正答率比較 平均正答率は、全国を1.6ポイント下回った

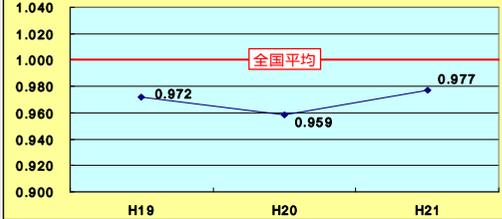
平成21年度 小学校国語A 正答率等比較



小学校国語A区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	79.4	81.7	0.972
H20	62.7	65.4	0.959
H21	68.3	69.9	0.977

小学校国語A区分正答率対全国比経年比較



- ◆ 全国の平均正答率が69.9%であるのに対し、大阪府は68.3%であり、1.6ポイント全国を下回った。
- ◆ 全国との差は、平成19年度が2.3ポイント、平成20年度が2.7ポイントであり、一昨年、昨年と比較すると全国の状況との差は縮まる傾向にある。
- ◆ 誤答率、無解答率においても、それぞれ全国の状況との間に有意な差は見られない。

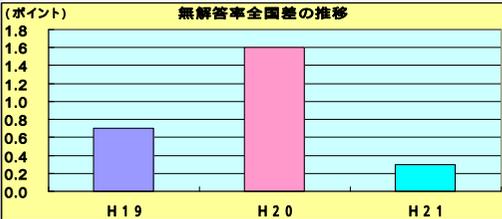
平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

- ◆ 過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の68.3%は、平成19年度の79.4%に次ぐ値であり、平成20年度は、62.7%と最も低い。
- ◆ 各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.972、平成20年度が0.959であるのに対し、本年度は0.977であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。

無解答率比較 無解答率は全国の状況を0.3ポイント上回った

小学校国語A区分無解答率全国差

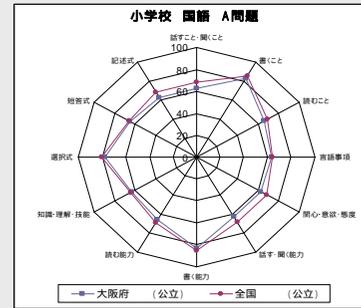
年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	2.7	2.0	0.7
H20	12.5	10.9	1.6
H21	10.2	9.9	0.3



- ◆ 大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が2.7%であったのに対し、平成20年度は12.5%、平成21年度は10.2%と、2年連続10%を超える結果となった。
- ◆ 過去3年間について、無解答率の全国の状況との差を経年比較してみると、平成19年度が0.7ポイント全国を上回り、平成20年度は1.6ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は、0.3ポイントであった。

領域・観点・問題形式別

平成21年度 小学校国語A レーダーチャート



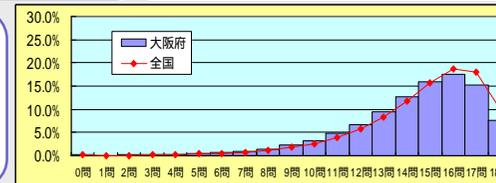
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と概ね同傾向を示していると言える。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「言語事項」「知識・理解・技能」の項目で、他の項目より低い値となった。
- ◆ いずれの、項目も大阪府は、全国の状況を下回る結果となったが、特に「話すこと・聞くこと」「関心・意欲・態度」「記述式」の項目で全国の状況との間に差が見られた。

正答数分布

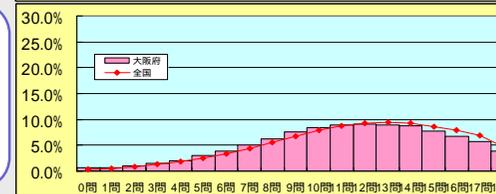
正答数分布の様子は、全国の状況と同傾向

平成19年度



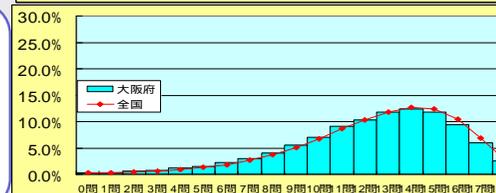
- ◆ 全国、大阪府とも、14問を頂点とする、右よりの山がたを描いている。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層では全国を3.1ポイント下回り、中位層、低位層ではそれぞれ1.9ポイント、1.2ポイント上回った。

平成20年度



- ◆ 分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向に変化はないが、その状況は弱まる傾向にあり、全国の状況に近づいている様子が表れている。

平成21年度



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	0.3	3.6	-4.1
H20	2.1	3.0	-4.9
H21	1.2	1.9	-3.1

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

- ・ 漢字を正しく読んだり書いたりする（同音異義語や抽象的な意味を持つ漢字の読み書き）
- ・ ローマ字を正しく読んだり書いたりする（「たべもの」:濁音の表記、「happa」:促音の読み方）
- ・ はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書く
- ・ 司会の進め方の良いところを説明する
- ・ 接続語を使って一文を二文に分けて書く

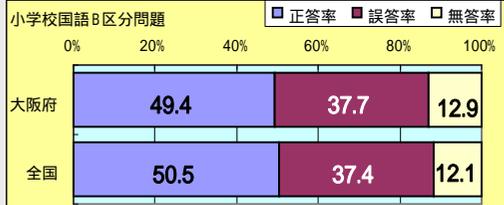
小学校国語 B区分問題（「活用」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が49.4%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 平均正答率は、全国を1.1ポイント下回った

平成21年度 小学校国語B 正答率等比較



◆全国の平均正答率が50.5%であるのに対し、大阪府は49.4%であり、1.1ポイント全国を下回った。

◆全国との差は、平成19年度が4.0ポイント、平成20年度が3.5ポイントであり、一昨年、昨年と比較すると全国の状況との差は縮まる傾向にある。

◆誤答率、無解答率においても、それぞれ全国の状況との間に有意な差は見られない。

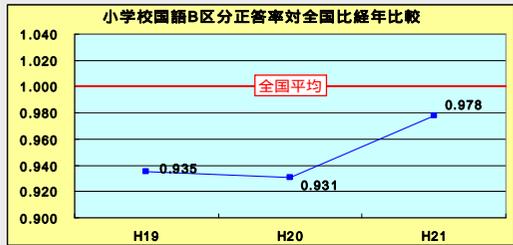
小学校国語B区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	58.0	62.0	0.935
H20	47.0	50.5	0.931
H21	49.4	50.5	0.978

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

◆過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の49.4%は、平成19年度の58.0%に次ぐ値であり、平成20年度は、47.0%と最も低い。

◆各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.935、平成20年度が0.931であるのに対し、本年度は0.978であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。



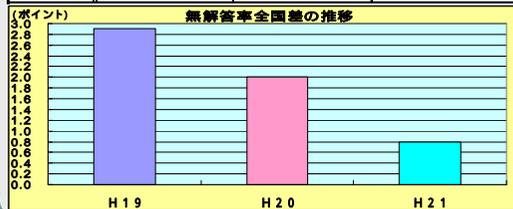
無解答率比較 無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

小学校国語B区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	11.6	8.7	2.9
H20	14.3	12.3	2.0
H21	12.9	12.1	0.8

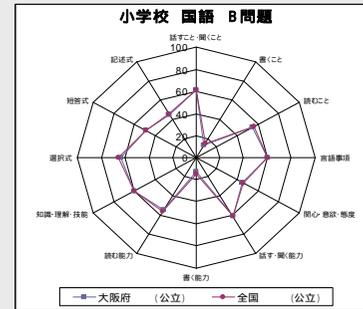
◆大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が11.6%であったのに対し、平成20年度は14.3%、平成21年度は12.9%と、3年連続10%を超える結果となった。

◆過去3年間について、無解答率の全国の状況との差を経年比較してみると、平成19年度が2.9ポイント全国を上回り、平成20年度は2.0ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は、0.8ポイントであった。



領域・観点・問題形式別

平成21年度 小学校国語B レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

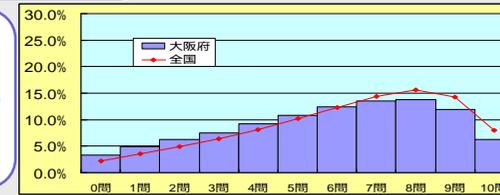
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように、同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「書くこと」「書く能力」の項目で、大きく落ち込んでいる。また、次いで、「関心・意欲・態度」「記述式」「短答式」等の項目が低い値を示している。

正答数分布

正答数分布の様子は、全国の状況と同傾向

平成19年度



◆全国、大阪府とも、6問を頂点とする、わずかに右よりの山がたを描いている。

◆正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層では全国を2.0ポイント下回り、中位層、低位層ではそれぞれ0.7ポイント、1.3ポイント上回った。

平成20年度



◆分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向に変化はないが、その状況は弱まる傾向にあり、全国の状況に近づいている様子が表れている。

平成21年度



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	4.8	1.8	-6.6
H20	5.2	-1.1	-4.1
H21	1.3	0.7	-2.0

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

- ・調べる内容を見通して、必要なことごとを整理する
- ・目的や意図に応じて、事象や意見などを関係づけながら書く
- ・自分の立場や意図を明確にして話し合う
- ・目的や意図に応じて、自分の考えをまとめる
- ・話の組立てを工夫しながら、図を使って説明する

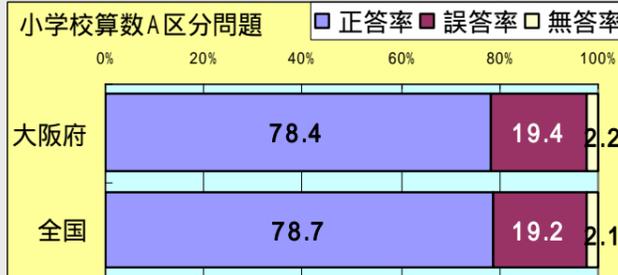
小学校算数 A区分問題（「知識」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が78.4%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある

正答率比較 平均正答率は、全国を0.3ポイント下回った

平成21年度 小学校算数A 正答率等比較



◆全国の平均正答率が78.7%であるのに対し、大阪府は78.4%であり、0.3ポイント全国を下回った。

◆全国との差は、平成19年度が1.6ポイント、平成20年度が1.0ポイントであり、一昨年、昨年と比較すると全国の状況との差は縮まる傾向にある。

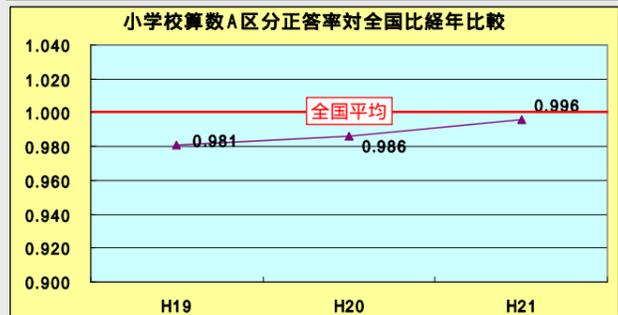
◆誤答率、無解答率においても、それぞれ全国の状況との間に有意な差はみられない。

小学校算数A区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	80.5	82.1	0.981
H20	71.2	72.2	0.986
H21	78.4	78.7	0.996

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

◆過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の78.4%は、平成19年度の80.5%に次ぐ値であり、平成20年度は、71.2%と最も低い。



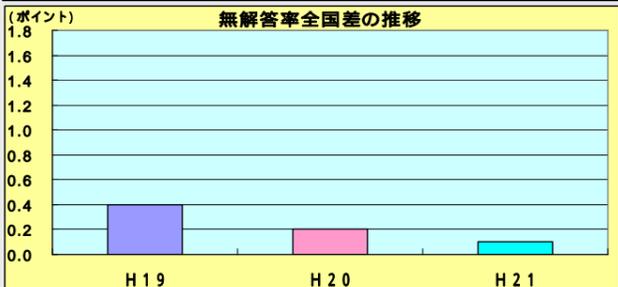
◆各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.981、平成20年度が0.986であるのに対し、本年度は0.996であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。

無解答率比較 無解答率は全国の状況を0.1ポイント上回った

小学校算数A区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	1.5	1.1	0.4
H20	3.2	3.0	0.2
H21	2.2	2.1	0.1

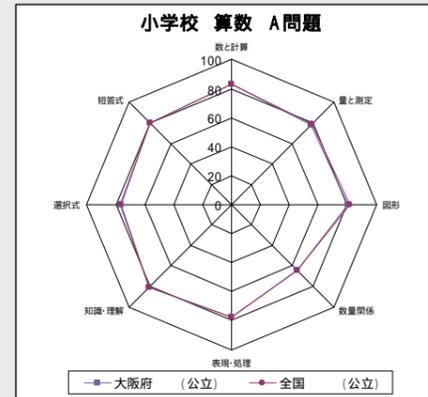
◆大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が1.5%であったのに対し、平成20年度は3.2%、平成21年度は2.2%であった。



◆過去3年間について、無解答率の全国の状況との差を経年比較してみると、平成19年度が0.4ポイント全国を上回り、平成20年度は0.2ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は、0.1ポイントであった。

領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平成21年度 小学校算数A レーダーチャート

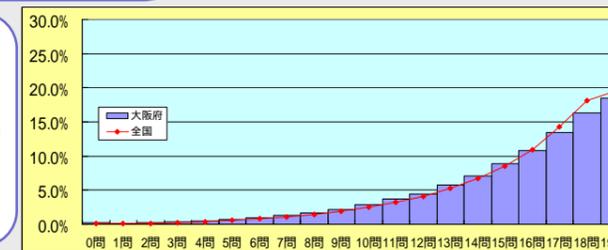


◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように、同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府ともにほとんどの項目で80%の高い値を示したが、「数量関係」では、他の項目より低い値となった。

正答数分布 正答数分布の様子は、全国の状況と同傾向

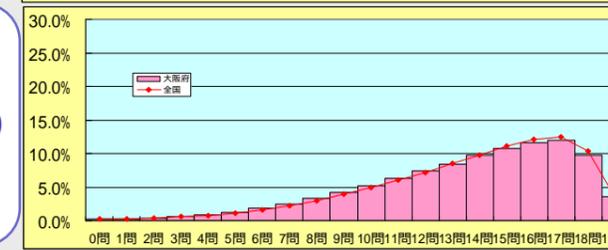
平成19年度



◆全国、大阪府とも、17問を頂点とする、右よりの片側傾斜に近い山がたを描いている。

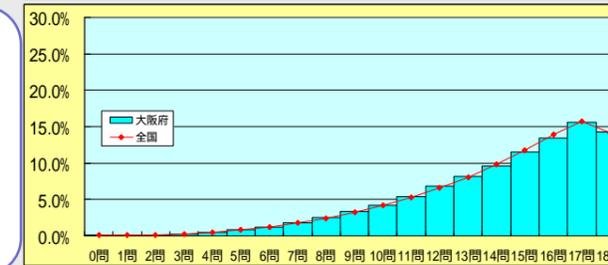
◆正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層では全国を0.7ポイント下回り、中位層、低位層ではそれぞれ0.6ポイント、0.1ポイント上回った。

平成20年度



◆分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向は、本年度ほとんどみられなくなり、ほぼ全国の分布状況と同じになった。

平成21年度



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	0.5	1.9	-2.4
H20	0.7	1.7	-2.2
H21	0.1	0.6	-0.7

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

- ・四捨五入の仕方の理解、及び概数にする為の四捨五入する位の理解
- ・三角形の三つの大きさの和が180度であることを用いて、四角形の四つの角の大きさの和の求め方を式に表す
- ・示された方眼を基にして、鈍角三角形の面積の求め方を考え、式に表す
- ・割合が、(比較量(割合に当たる大きさ)) ÷ (基準量(基準にする大きさ)) で求められること、及び基準量を100として、それに対する割合で表す方法が百分率であること、の理解

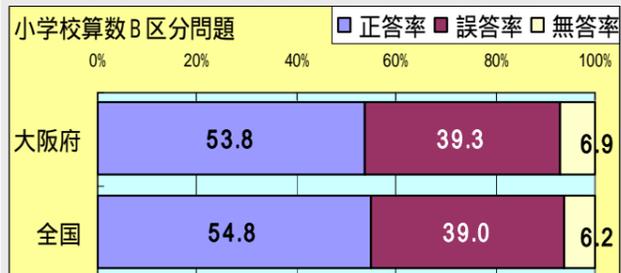
小学校算数 B 区分問題（「活用」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が53.8%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 平均正答率は、全国を1.0ポイント下回った

平成21年度 小学校算数B 正答率等比較



- ◆ 全国平均正答率が54.8%であるのに対し、大阪府は53.8%であり、1.0ポイント全国を下回った。
- ◆ 全国との差は、平成19年度が2.9ポイント、平成20年度が1.7ポイントであり、一昨年、昨年と比較すると全国との差は縮まる傾向にある。
- ◆ 誤答率、無解答率においても、それぞれ全国の状況との間に有意な差はみられない。

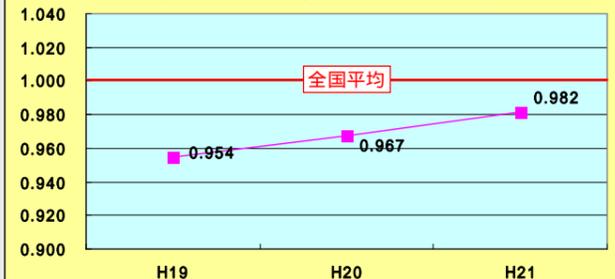
小学校算数B区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	60.7	63.6	0.954
H20	49.9	51.6	0.967
H21	53.8	54.8	0.982

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

- ◆ 過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の53.8%は、平成19年度の60.7%に次ぐ値であり、平成20年度は、49.9%と最も低い。

小学校算数B区分正答率対全国比経年比較



- ◆ 各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.954、平成20年度が0.967であるのに対し、本年度は0.982であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。

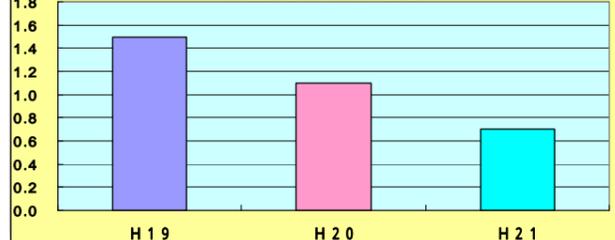
無解答率比較 無解答率は全国を0.7ポイント上回った

小学校算数B区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	7.4	5.9	1.5
H20	7.1	6.0	1.1
H21	6.9	6.2	0.7

- ◆ 大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が7.4%であったのに対し、平成20年度は7.1%、平成21年度は6.9%であった。

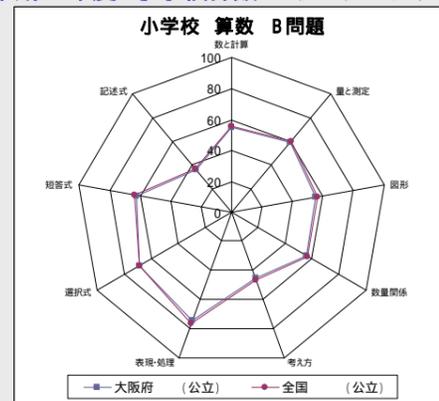
無解答率全国差の推移



- ◆ 過去3年間について、無解答率の全国の状況との差を経年比較してみると、平成19年度が1.5ポイント全国を上回り、平成20年度は1.1ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は、0.7ポイントであった。

領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平成21年度 小学校算数B レーダーチャート



- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように、同傾向を示している。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「考え方」「記述式」の項目で、大きく落ち込んでいる。一方「表現・処理」の項目では、比較的良好な値を示している。

正答数分布 正答数分布の様子は、全国の状況と同傾向

平成19年度



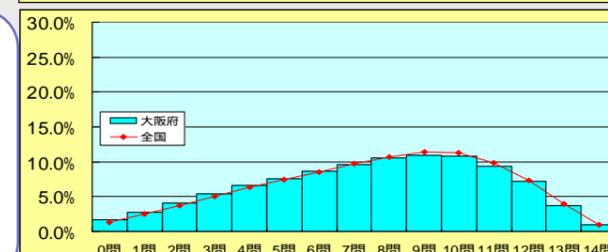
- ◆ 全国、大阪府とも、9問を頂点とする、右よりのなだらかな山がたを描いている。

平成20年度



- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層・中位層ではそれぞれ全国を1.2ポイント、0.3ポイント下回り、低位層では1.6ポイント上回った。

平成21年度



- ◆ 分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向に変化はないが、その状況は弱まる傾向にあり、全国の状況に近づいている様子が表れている。

正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	2.5	1.1	-3.6
H20	2.8	-0.5	-2.3
H21	1.6	-0.3	-1.2

B 区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

- ・ 示された解決方法を理解して、見方を変えた解決方法を考えて書く
- ・ 与えられた複数の条件を整理して、すべての条件を満たす結論を導き出す
- ・ 示された板にカードを敷き詰めることができないと判断するための方法を数学的に表現する
- ・ グラフから割合の大小を判断し、その理由を書く

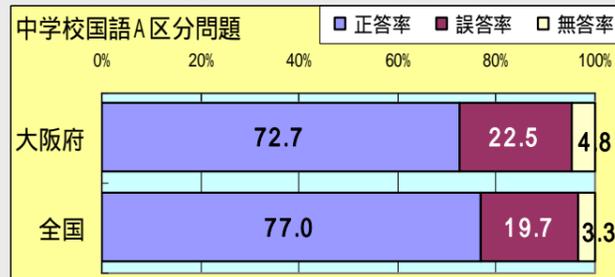
中学校国語 A区分問題（「知識」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が72.7%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある

正答率比較 平均正答率は、全国を4.3ポイント下回った

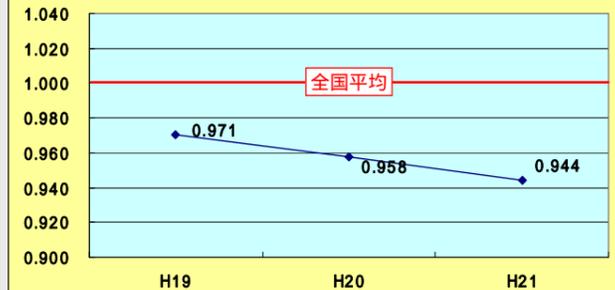
平成21年度 中学校国語A 正答率等比較



中学校国語A区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	79.2	81.6	0.971
H20	70.5	73.6	0.958
H21	72.7	77.0	0.944

中学校国語A区分正答率対全国比経年比較



◆ 全国平均正答率が77.0%であるのに対し、大阪府は72.7%であり、4.3ポイント全国を下回った。

◆ 全国との差は、平成19年度が2.4ポイント、平成20年度が3.1ポイントであり、一昨年、昨年と比較すると全国との差は広がる傾向にある。

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を下回った

◆ 過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の72.7%は、平成19年度の79.2%に次ぐ値であり、平成20年度は、70.5%と最も低い。

◆ 各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.971、平成20年度が0.958であるのに対し、本年度は0.944であり、平成19年度、20年度を下回っていることが分かる。

無解答率比較 無解答率は全国状況を1.5ポイント上回った

中学校国語A区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	4.6	3.5	1.1
H20	5.2	3.8	1.4
H21	4.8	3.3	1.5

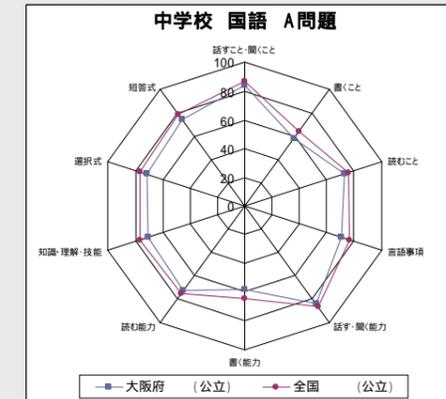


◆ 大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が4.6%であったのに対し、平成20年度は5.2%、平成21年度は4.8%であった。

◆ 過去3年間について、無解答率の全国との差を経年比較してみると、平成19年度が1.1ポイント、平成20年度は1.4ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は1.5ポイントであり、全国との関係で見れば、無解答率は増加の傾向にあるといえる。

領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平成21年度 中学校国語A レーダーチャート



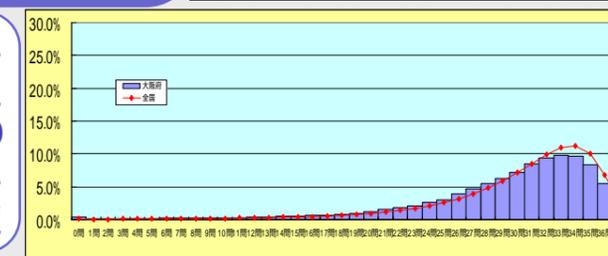
◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と概ね同傾向を示していると言える。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「書くこと」「書く能力」の項目で、他の項目より低い値を示した。一方「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」の項目では、比較的良好的な値を示している。

◆ いずれの、項目も大阪府は、全国の状況を下回る結果となったが、特に「書くこと」「書く能力」の項目で全国の状況との間に差が見られた。

正答数分布 全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い

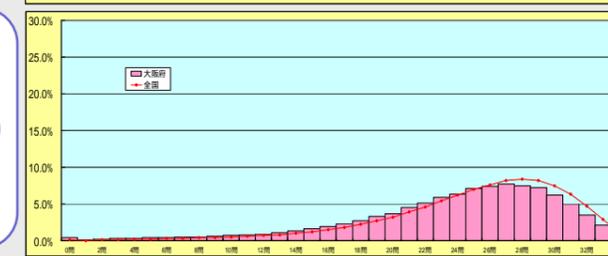
平成19年度



◆ 全国、大阪府とも、30問を頂点とする、右よりのなだらかな山がたを描いている。

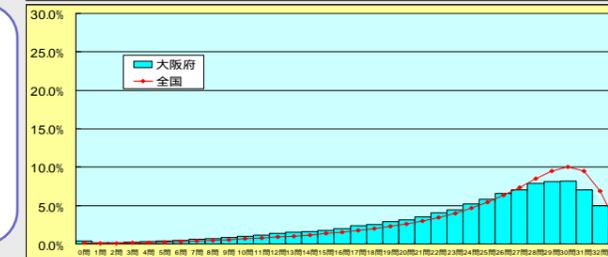
◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層で7.9ポイント全国の状況を下回り、中位層、低位層ではそれぞれ5.5ポイント、2.4ポイント上回った。

平成20年度



◆ 分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向に変化はないが、その状況は強まる傾向にある。

平成21年度



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	1.1	3.1	-4.1
H20	2.0	5.3	-7.1
H21	2.4	5.5	-7.9

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

- ・主語(主部)に対応させて述語(述部)を適切に書く
- ・短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむ
- ・古文と現代語訳とに対応させて内容をとらえる
- ・漢字を正しく書く問題の無解答率の高さ

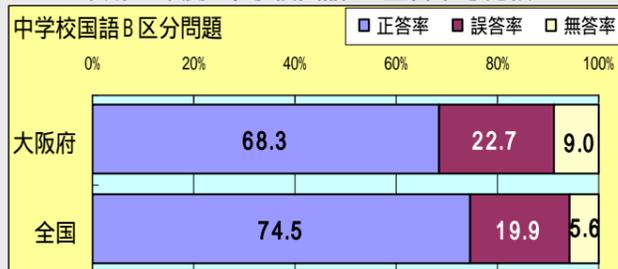
中学校国語 B区分問題（「活用」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が68.3%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力を一層はぐくむ必要がある

正答率比較 平均正答率は、全国を6.2ポイント下回った

平成21年度 中学校国語B 正答率等比較



中学校国語B区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	65.0	72.0	0.903
H20	55.2	60.8	0.908
H21	68.3	74.5	0.917

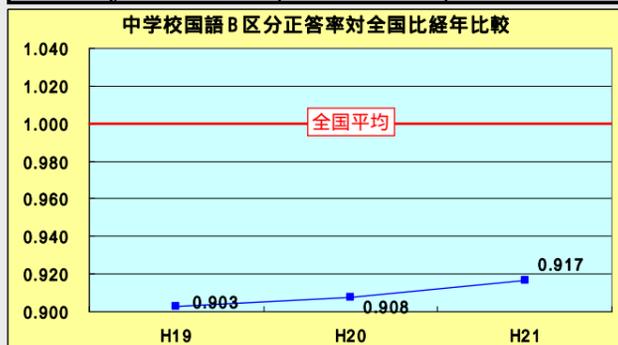
◆全国の平均正答率が74.5%であるのに対し、大阪府は68.3%であり、6.2ポイント全国を下回った。

◆全国との差は、平成19年度が7.0ポイント、平成20年度が5.6ポイントであり、全国との状況との差に変化は見られない。

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

◆過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の68.3%は、平成19年度の65.0%に次ぐ値であり、平成20年度は、55.2%と最も低い。

◆各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.903、平成20年度が0.908であるのに対し、本年度は0.917であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。



無解答率比較 無解答率は全国を3.4ポイント上回った

中学校国語B区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	8.5	5.2	3.3
H20	12.9	8.7	4.2
H21	9.0	5.6	3.4

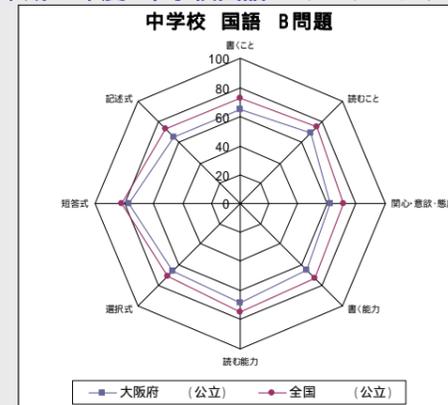
◆大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が8.5%であったのに対し、平成20年度は12.5%、平成21年度は9.0%であった。

◆過去3年間について、無解答率の全国との差を経年比較してみると、平成19年度が3.3ポイント、平成20年度は4.2ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は3.4ポイントであり、全国との状況との関係で見れば、無解答率は依然として高い状況にある。



領域・観点・問題形式別 「書くこと」「関心・意欲・態度」「記述式」に課題

平成21年度 中学校国語B レーダーチャート



◆今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「短答式」の出題形式の問題で比較的良好な値を示している。

◆いずれの項目も大阪府は、全国との状況を下回る結果となったが、特に「書くこと」「書く能力」「関心・意欲・態度」「記述式」の項目で全国との状況との間に差が見られた。

正答数分布 全国との状況に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い

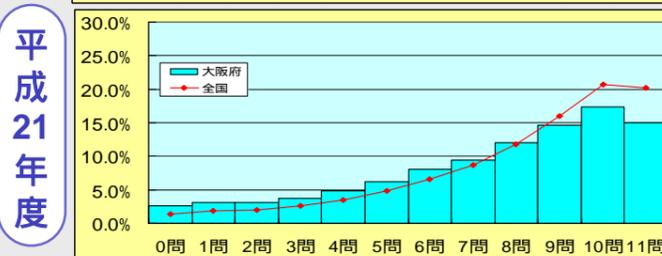


◆全国、大阪府とも、10問を頂点とする、右よりのなだらかな山がたを描いている。

◆正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層で9.7ポイント全国の状況を下回り、中位層、低位層ではそれぞれ5.0ポイント、4.7ポイント上回った。



◆分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、全国に比べ、学力高位層が少なく、中・低位層が多い傾向に変化はない、全教科・区分中最も顕著に表れている。



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	6.1	3.9	-10.0
H20	6.8	0.2	-7.3
H21	4.7	5.0	-9.7

B区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

- ・資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる
- ・文章と補助資料の関わりを理解する
- ・文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書く
- ・記述して解答する問題の無解答率の高さ

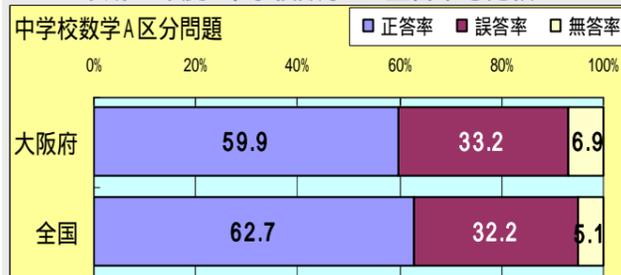
中学校数学 A区分問題（「知識」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率は59.9%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる

正答率比較 平均正答率は、全国を2.8ポイント下回った

平成21年度 中学校数学A 正答率等比較



◆ 全国平均正答率が62.7%であるのに対し、大阪府は59.9%であり、2.8ポイント全国を下回った。

◆ 全国との差は、平成19年度が2.5ポイント、平成20年度が2.6ポイントであり、全国との状況との差に変化は見られない。

中学校数学A区分正答率対全国比

年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	69.4	71.9	0.965
H20	60.5	63.1	0.959
H21	59.9	62.7	0.955

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を下回った

◆ 過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の59.9%は、平成19年度の69.4%、平成20年度60.5%に比べ最も低い結果となった。

中学校数学A区分正答率対全国比経年比較



◆ 各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.965、平成20年度が0.959であるのに対し、本年度は0.955であり、平成19年度、20年度を下回っていることが分かる。

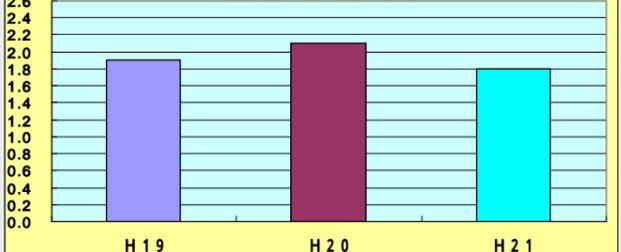
無解答率比較 無解答率は全国状況を1.8ポイント上回った

中学校数学A区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	6.0	4.1	1.9
H20	8.7	6.6	2.1
H21	6.9	5.1	1.8

◆ 大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が6.0%であったのに対し、平成20年度は8.7%、平成21年度は6.9%であった。

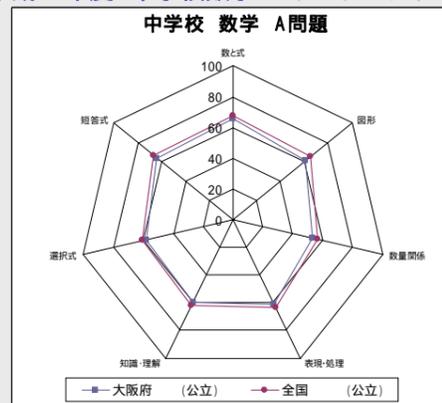
(ポイント) 無解答率全国差の推移



◆ 過去3年間について、無解答率の全国との差を経年比較してみると、平成19年度が1.9ポイント、平成20年度は2.1ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は1.8ポイントであり、全国との関係で見れば、無解答率は依然として高い状況にある。

領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平成21年度 中学校数学A レーダーチャート

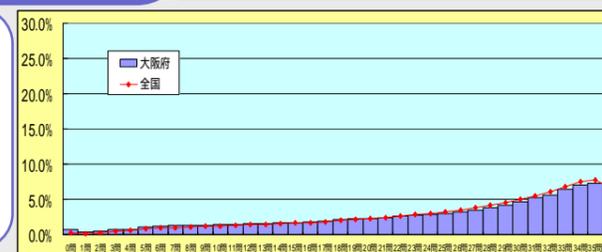


◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と概ね同傾向を示していると言える。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「数量関係」の項目で、他の項目より低い値となった。その中で「数と式」は比較的良好な値を示している。

正答数分布 ならぬかではあるが、双こぶの傾向が表れ始めている

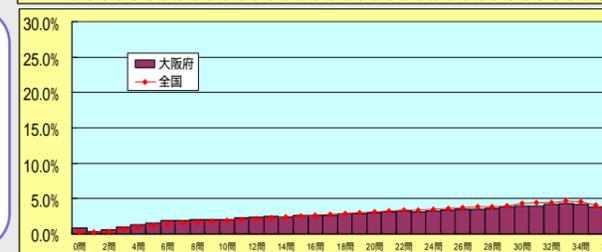
平成19年度



◆ 全国、大阪府とも、ほとんど頂点の見られない平坦な分布状況を示しており、生徒個々の学力に差が生じている状況が表れている。

◆ 大阪府の場合14問付近に微かな頂点が表れ始めており、双こぶの分布状況の兆候が見られる。

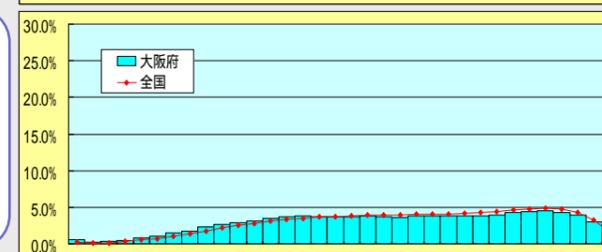
平成20年度



◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層・中位層ではそれぞれ全国を3.8ポイント、0.3ポイント下回り、低位層では4.1ポイント上回った。

◆ 分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、学力高位層が少なく、低位層が多い傾向に変化はなく、分布の拡散傾向がさらに広がっている状況が見られる。

平成21年度



正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	3.1	0.7	-3.8
H20	4.0	-1.0	-3.0
H21	4.1	-0.3	-3.8

A区分問題（「知識」に関する問題）にみえる課題等

- ・与えられた2数の関係を表す表の特徴をとらえ、式に表現すること
- ・同位角の意味を理解し、角の位置関係としてとらえる
- ・線対称、点対称の意味を理解するとともに、平面図形の対称性に着目し、具体的な場面で活用する

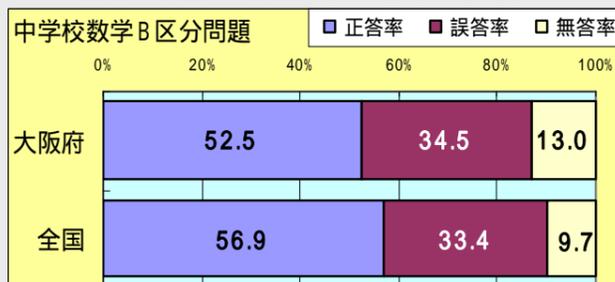
中学校数学 B 区分問題（「活用」に関する問題）

平成21年度
全国学力・学習状況調査
学力調査結果報告

平均正答率が52.5%であり、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に課題がある

正答率比較 平均正答率は、全国を4.4ポイント下回った

平成21年度 中学校数学B 正答率等比較



◆ 全国平均正答率が56.9%であるのに対し、大阪府は52.5%であり、4.4ポイント全国を下回った。

◆ 全国との差は、平成19年度が5.3ポイント、平成20年度が4.0ポイントであり、全国との状況との差に変化は見られない。

中学校数学B区分正答率対全国比

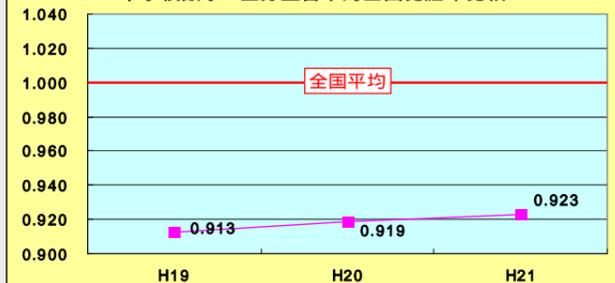
年度	大阪府平均正答率	全国平均正答率	全国比(大阪府/全国)
H19	55.3	60.6	0.913
H20	45.2	49.2	0.919
H21	52.5	56.9	0.923

平均正答率の全国比では、昨年度、一昨年度を上回った

◆ 過去3年間の平均正答率を数値のみで比較すると、本年度の56.9%は、平成19年度の60.6%に次ぐ値であり、平成20年度は、49.2%と最も低い。

◆ 各年度の平均正答率は、年度ごとの問題の難易度に大きく左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率の比で比較すると、平成19年度が0.913、平成20年度が0.919であるのに対し、本年度は0.923であり、平成19年度、20年度を上回っていることが分かる。

中学校数学B区分正答率対全国比経年比較



無解答率比較 無解答率は全国の状況を3.3ポイント上回った

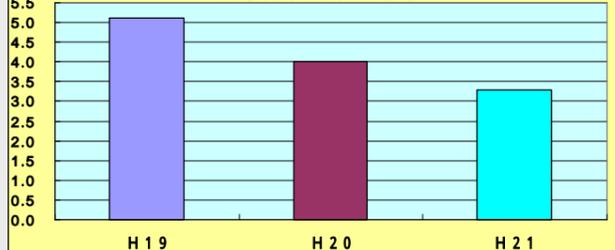
中学校数学B区分無解答率全国差

年度	大阪府平均無解答率	全国平均無解答率	全国差(大阪府-全国)
H19	19.5	14.4	5.1
H20	17.4	13.4	4.0
H21	13.0	9.7	3.3

◆ 大阪府の無解答率の状況は、平成19年度が19.5%であったのに対し、平成20年度は17.4%、平成21年度は13.0%と、3年連続10%を超える結果となった。

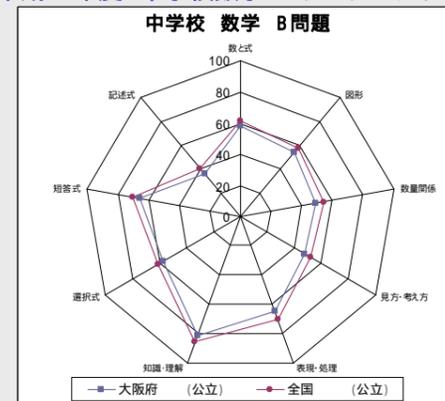
◆ 過去3年間について、無解答率の全国との差を経年比較してみると、平成19年度が5.1ポイント全国を上回り、平成20年度は4.0ポイント上回ったのに対し、本年度、全国を上回った値は、3.3ポイントであった。

(ポイント) 無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

平成21年度 中学校数学B レーダーチャート

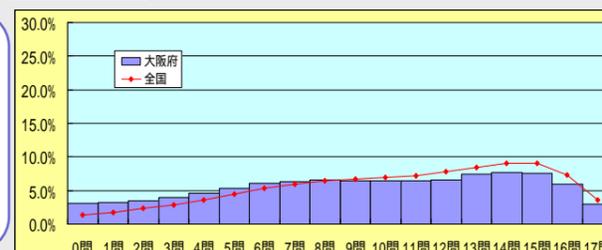


◆ レーダーチャートの描くラインは、全国との状況と概ね同傾向を示していると言える。

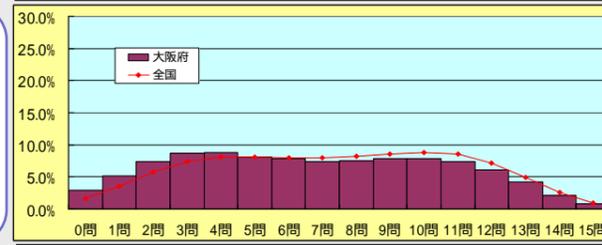
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに、「記述式」の項目で、大きく落ち込んでいる。一方「知識・理解」の項目では、比較的良好な値を示している。

正答数分布 ならぬかではあるが、双こぶの傾向が表れ始めている

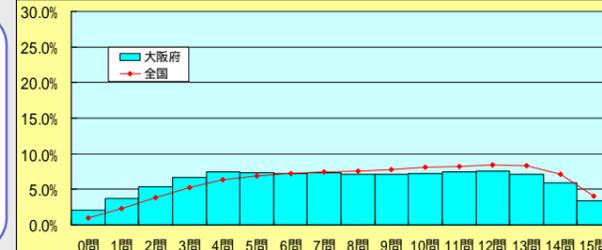
平成19年度



平成20年度



平成21年度



◆ 全国、大阪府とも、ほとんど頂点の見られない平坦な分布状況を示しており、生徒個々の学力に差が生じている状況が表れている。

◆ 大阪府の場合4問付近に微かな頂点が表れ始めており、双こぶの分布状況の兆候が見られる。

◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ高位層、中位層、低位層の3層に分けた場合、その分布の状況は高位層・中位層ではそれぞれ全国を4.9ポイント、2.0ポイント下回り、低位層では6.9ポイント上回った。

◆ 分布の様子を平成19年度からの3年間経年比較してみると、学力高位層が少なく、低位層が多い傾向は、分布の拡散傾向が強まることとあいまって、二極化へと変化してきている。

正答数分布3層に見る全国との差の推移

	低位1/3	中位1/3	高位1/3
H19	7.2	-0.4	-6.8
H20	6.6	-3.2	-3.4
H21	6.9	-2.0	-4.9

B 区分問題（「活用」に関する問題）にみえる課題等

- ・一次関数の知識・技能などを活用して、問題解決の方法を説明する
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明する
- ・事柄が成り立つ理由を筋道を立てて説明する際に、問題場面を理解し、与えられた情報を分類整理する

大阪の子どもたちの生活の様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - 1

【家庭生活の様子】

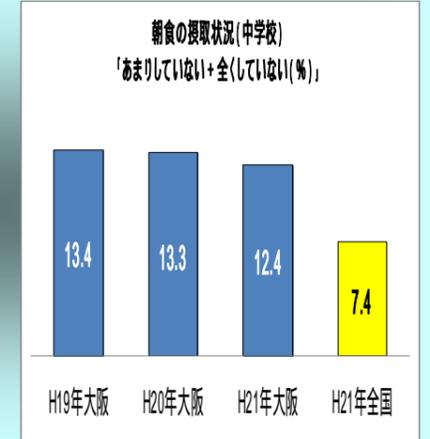
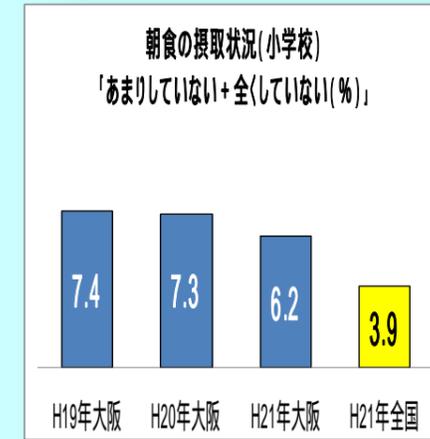
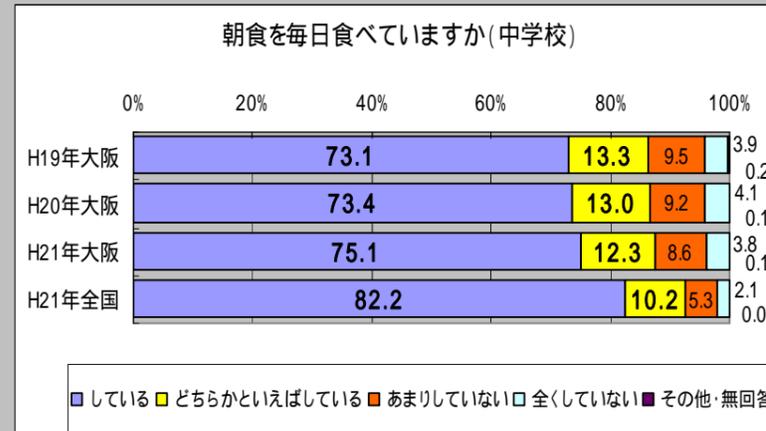
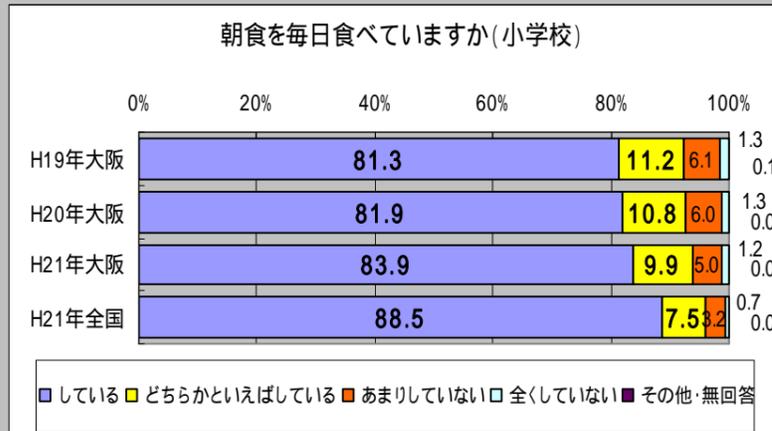
- ・朝食を食べていない子どもの割合は減少傾向にあるが、全国に比べると依然として高い。
- ・起床時刻、就寝時刻は小中学校とも全国と比べ遅い傾向が継続している。

1 - 1 朝ごはん

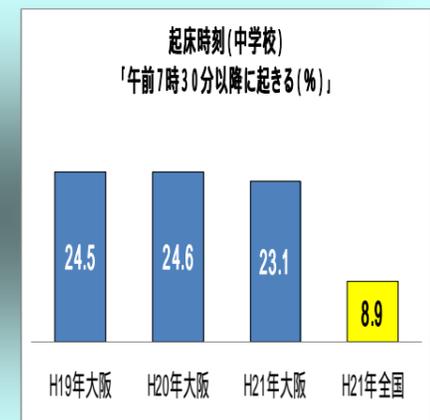
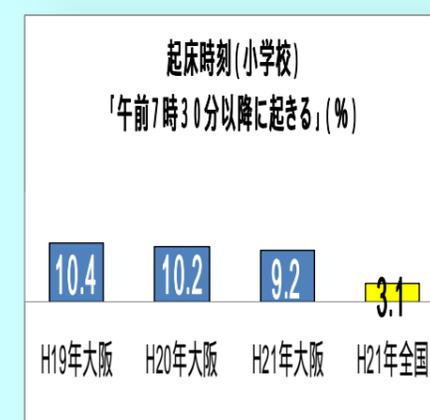
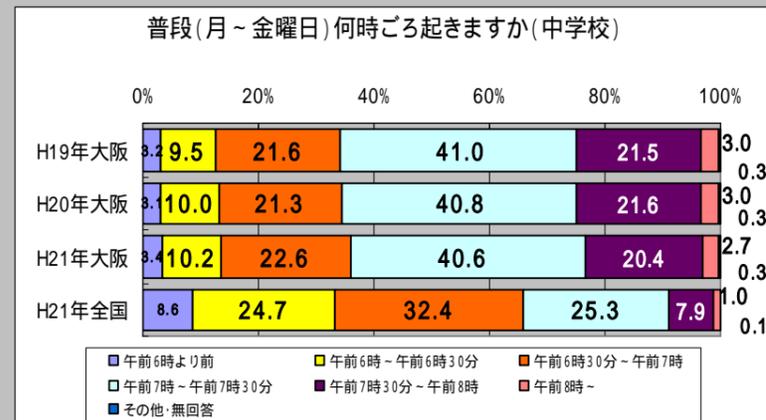
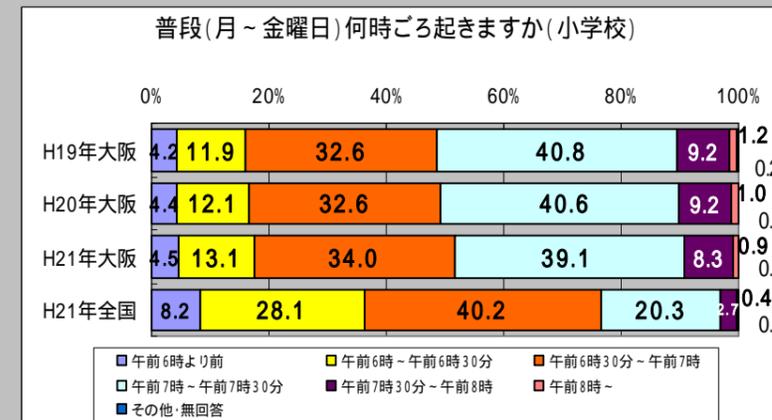
小学校

中学校

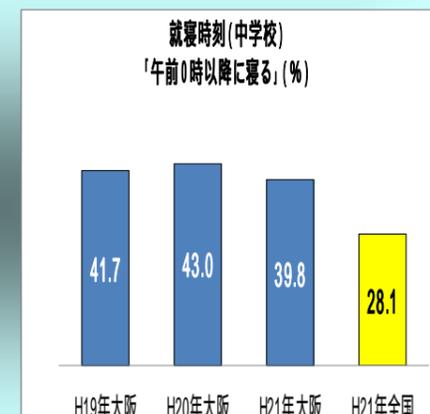
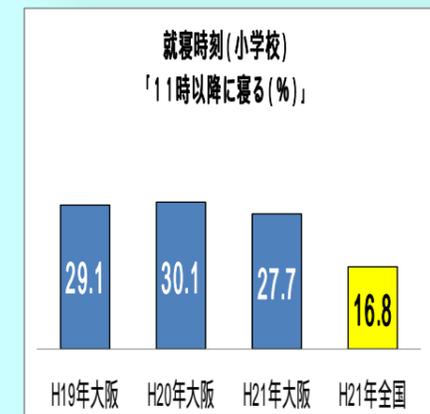
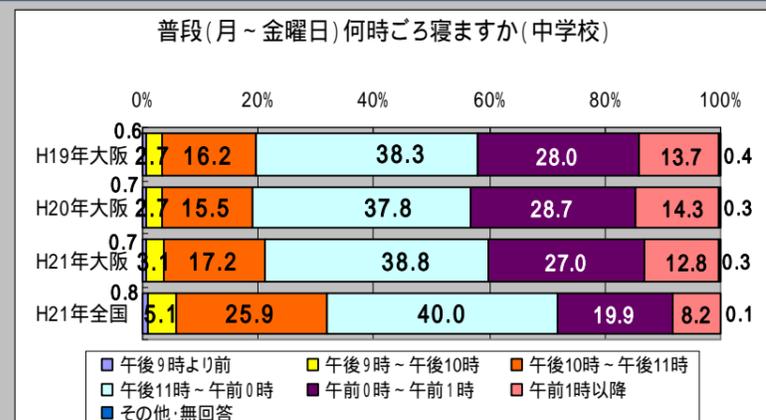
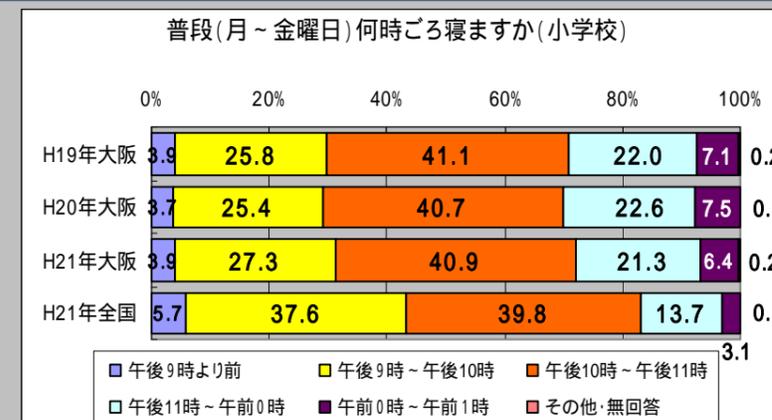
グラフの数値はすべて%表示



1 - 2 起床時刻



1 - 3 就寝時刻



大阪の子どもたちの生活の様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - 2

【家庭生活の様子】

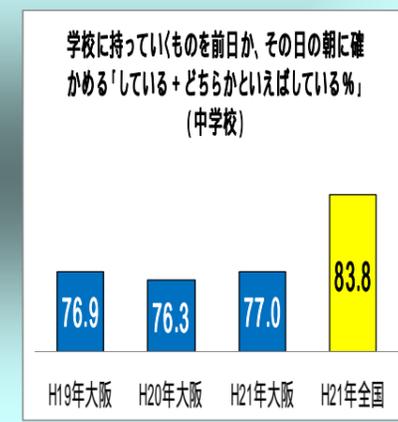
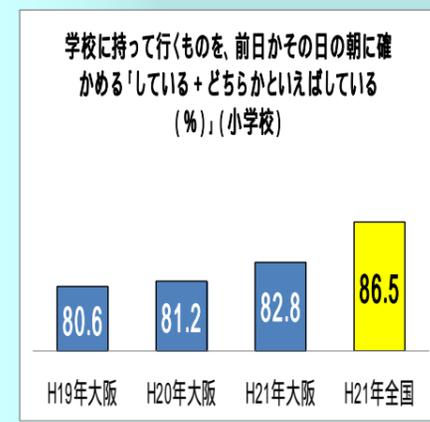
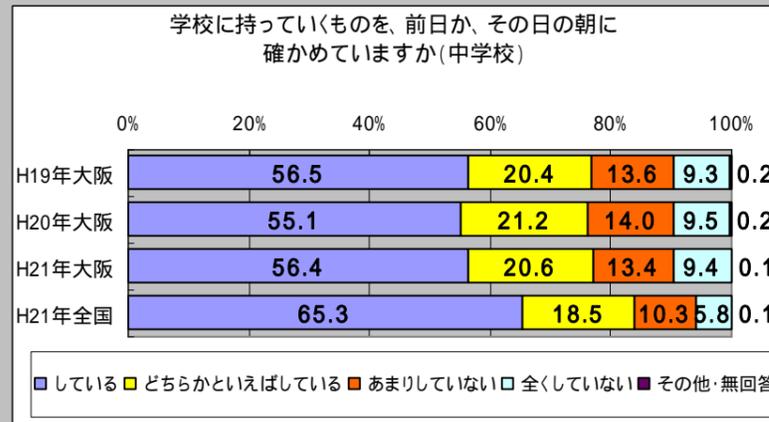
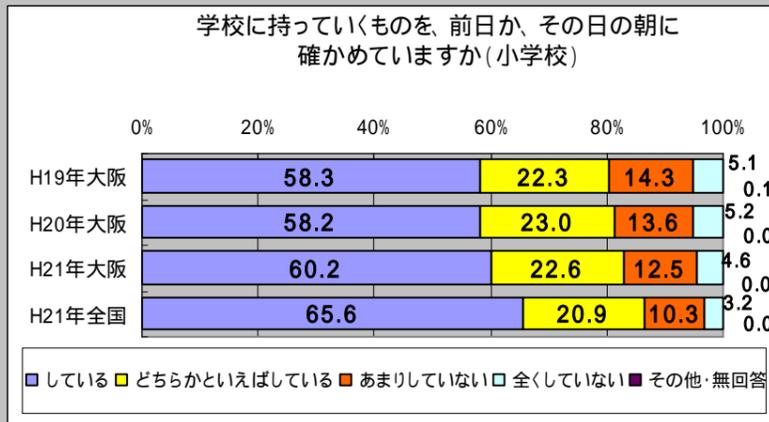
- ・小学校で、登校準備を前日か当日の朝にしている児童の割合は増加の傾向にあるが、全国に比べるとまだその割合はやや低い。
- ・携帯電話で通話・メールをする子どもの割合は小中学校とも全国よりかなり高い。また、使い方について家族との約束を守っている割合も小中学校とも全国よりも高い。

1 - 4 準備物

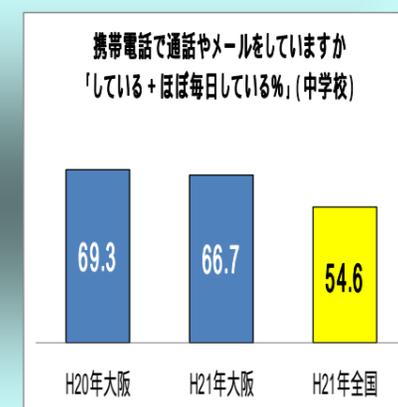
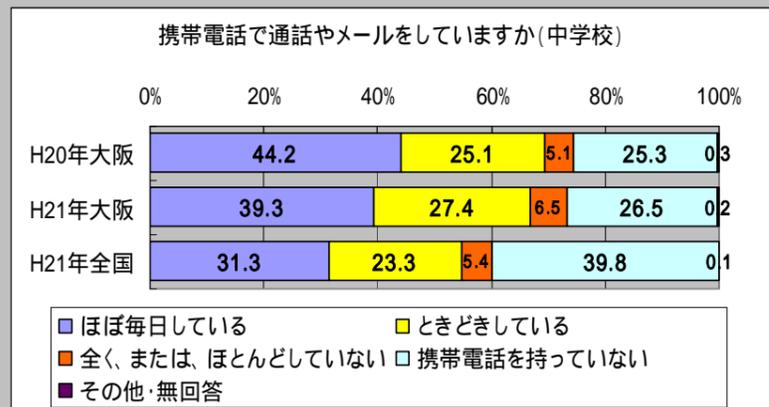
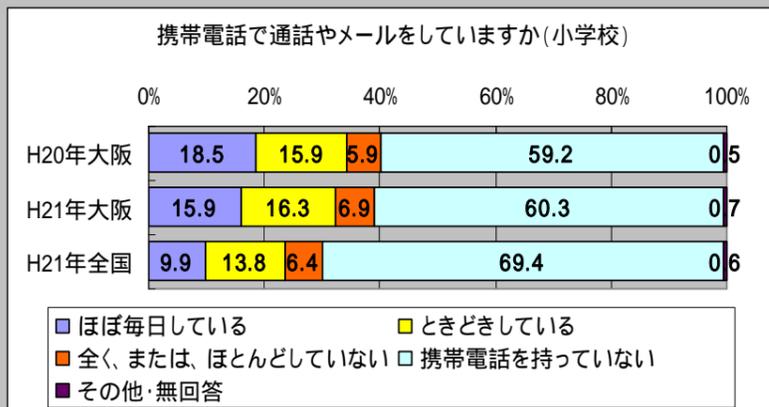
小学校

中学校

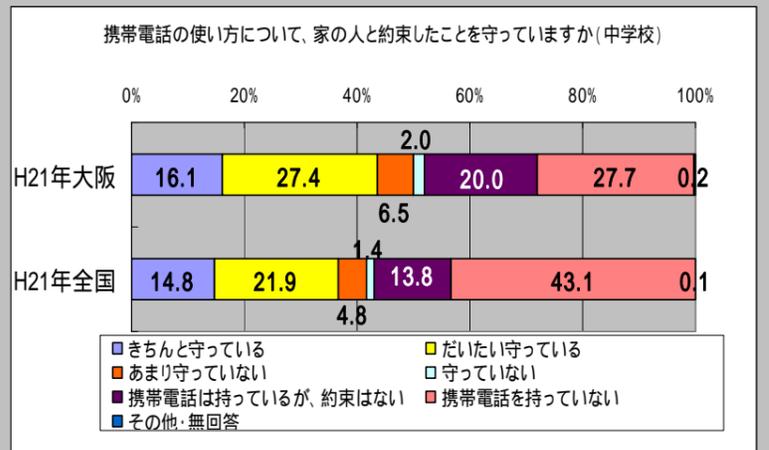
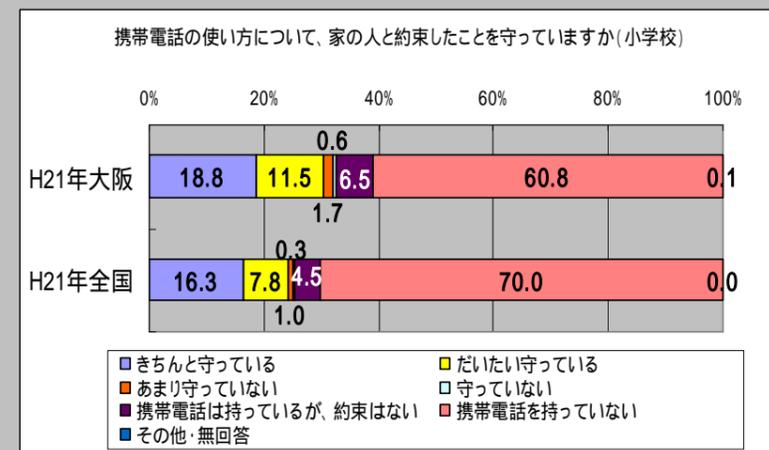
グラフの数値はすべて%表示



1 - 5 携帯電話の使用



1 - 6 携帯電話の約束



大阪の子どもたちの生活の様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - 3

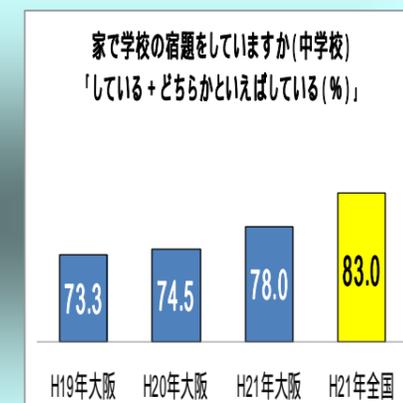
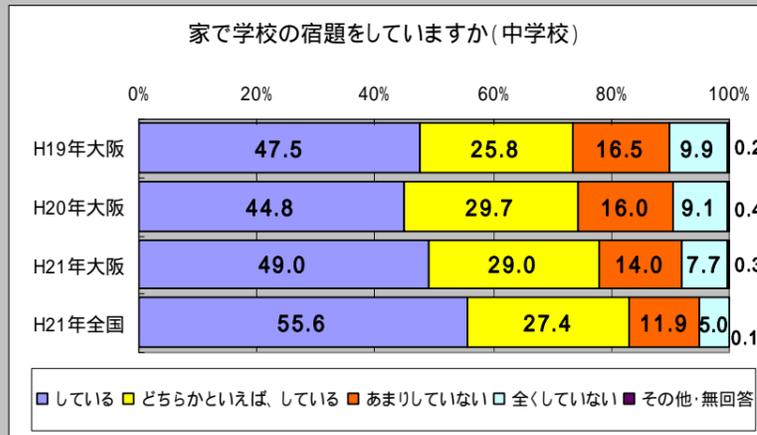
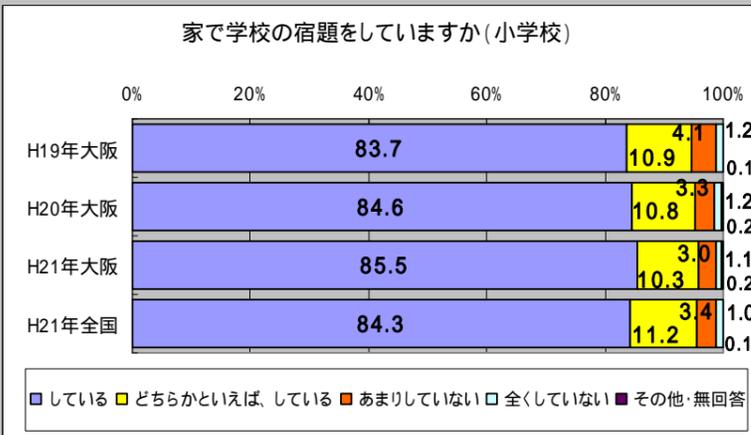
【学習の様子】
 ・家で学校の宿題をする子どもの割合は、小中学校とも増加傾向にあり、小学校では全国とほぼ等しい。
 ・学校での授業の復習をする子どもの割合は、小学校では増加傾向にあるが、全国と比べるとやや低い。また中学校では全国に比べ低い。
 ・計画的に家庭学習を行う中学生の割合は、今年度のみを比べると全国とほぼ等しくなっている。

2-1 学校の宿題

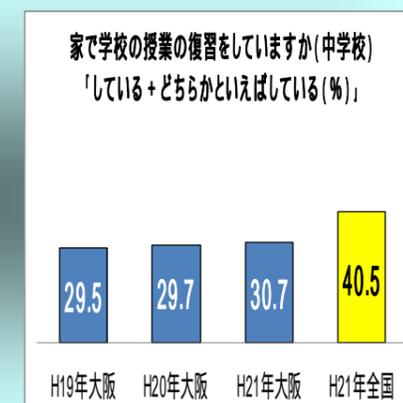
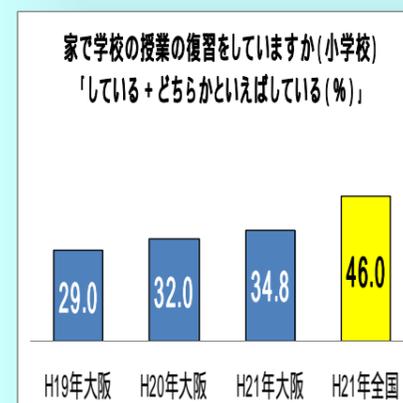
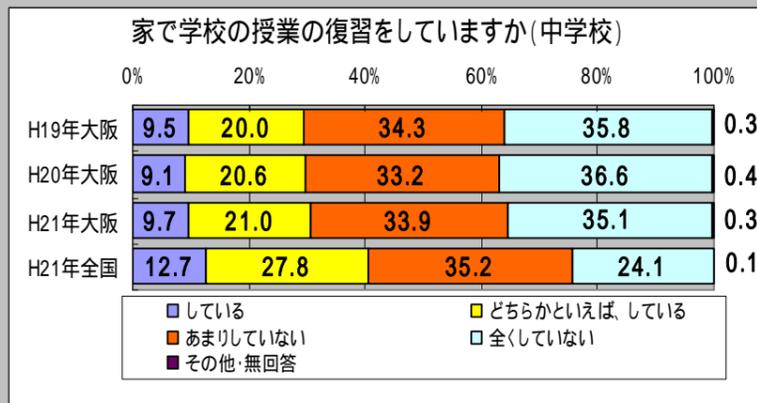
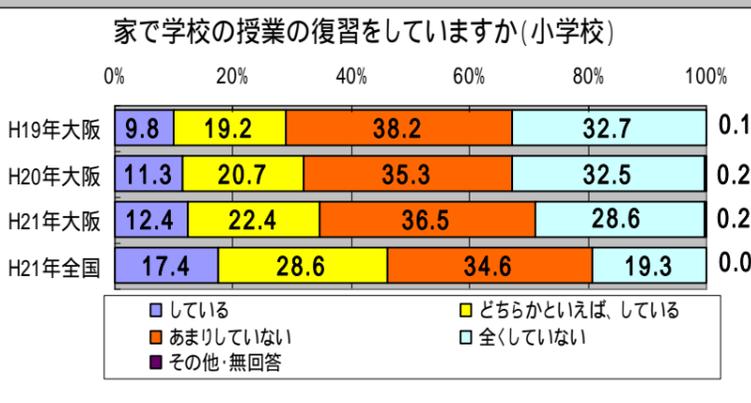
小学校

中学校

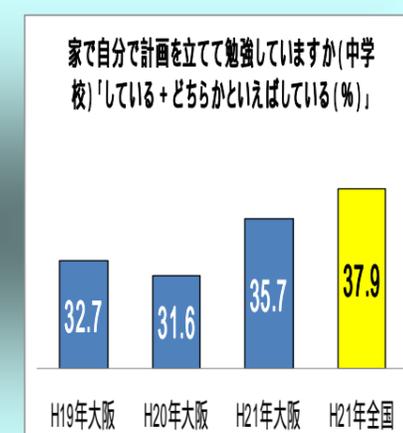
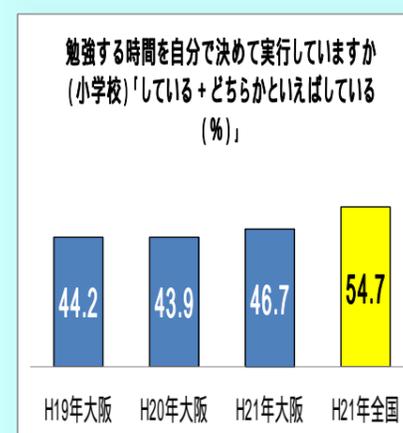
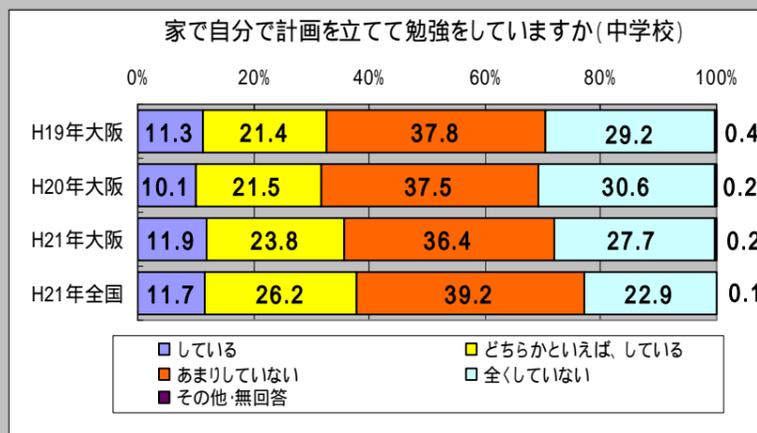
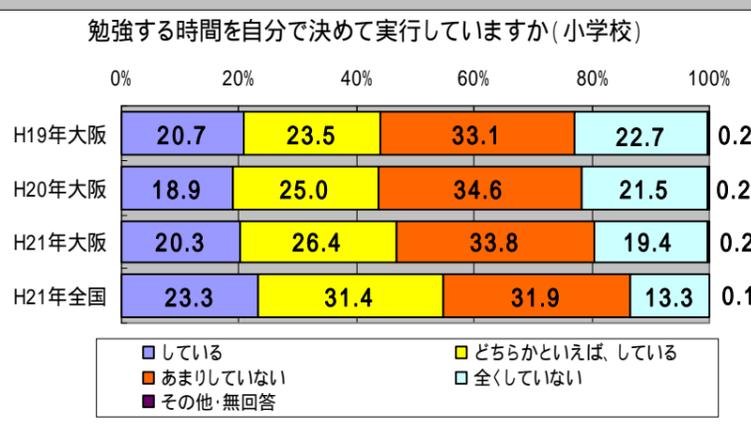
グラフの数値はすべて%表示



2-2 授業の復習



2-3 自主的・計画的な家庭学習



大阪の子どもたちの生活の様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - 4

【学習の様子】

- ・土曜・日曜などの休日にまったく勉強しない割合が小中学校とも20%以上であり、全国に比べてかなり高い。
- ・月～金曜日、1日あたり2時間以上学習している子どもの割合は、小中学校とも3年連続で全国を上回っている。

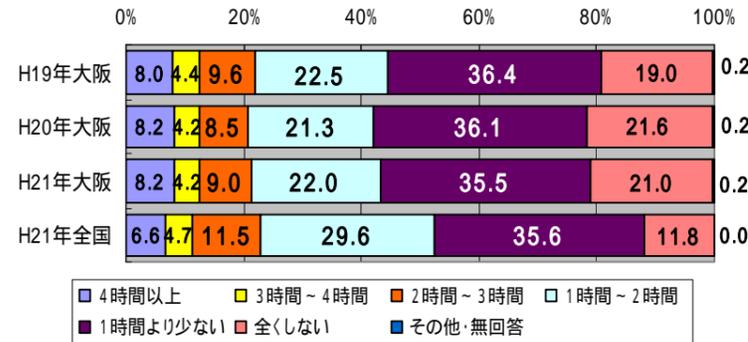
2-4 休日の家庭学習

小学校

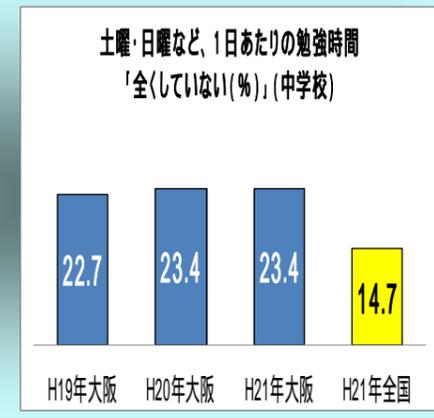
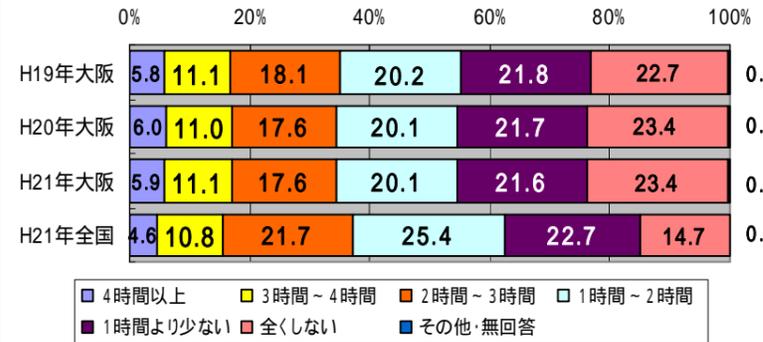
中学校

グラフの数値はすべて%表示

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(小学校)

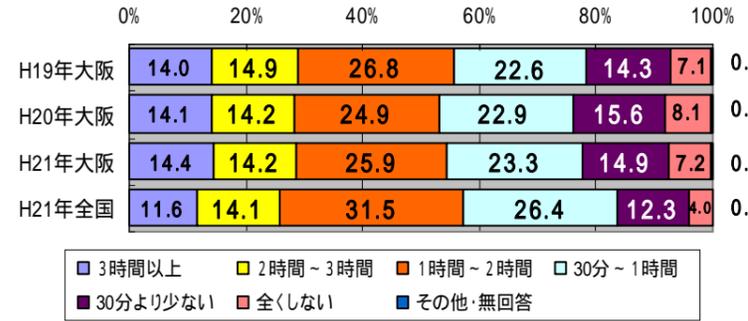


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(中学校)

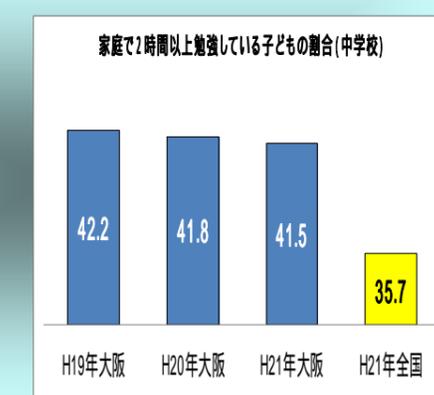
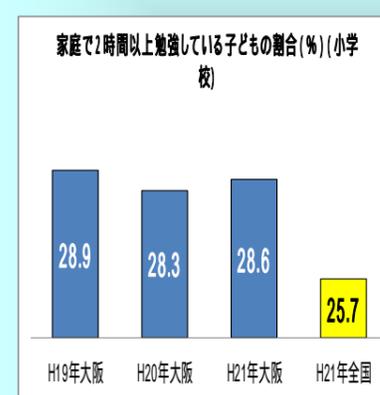
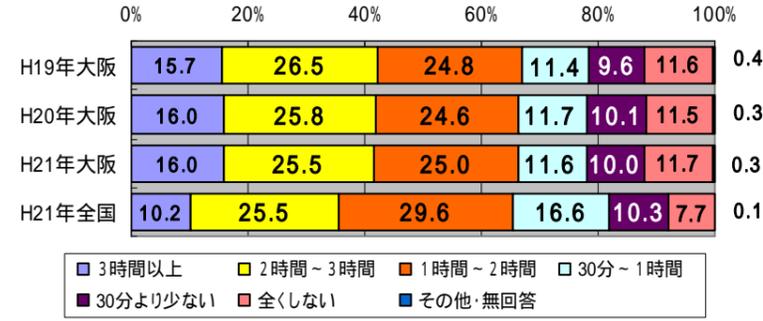


2-5 1日あたりの勉強時間

学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(小学校)

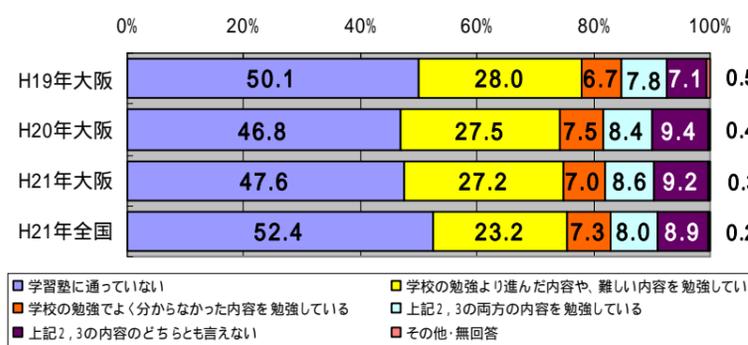


学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(中学校)

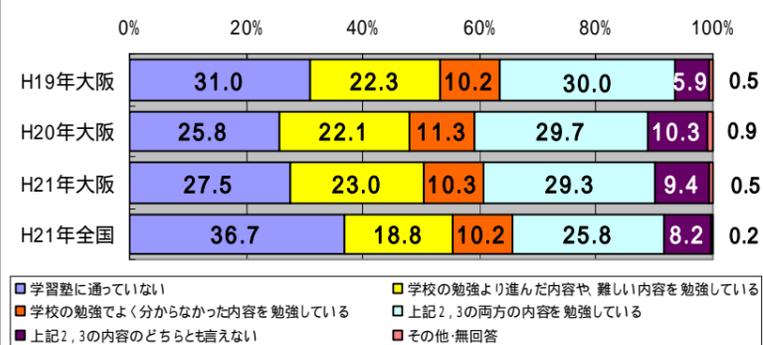


2-6 学習塾等での勉強

学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか(小学校)



学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか(中学校)



【学習塾等での勉強】

学習塾に通っているかどうかについては、通っていない子どもの割合が、小中学校ともに全国より低く、中学校ではその差が小学校よりも大きい。また学習塾等に通っている場合、どのような学習をしているかなどについては、小中学校とも全国の傾向と毎年ほぼ同じ傾向が見られる。

大阪の子どもたちの学習に対する意識(公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.5

【学習や読書に対する意識】

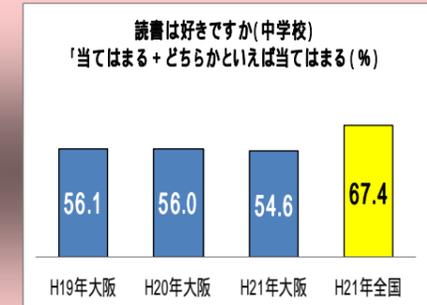
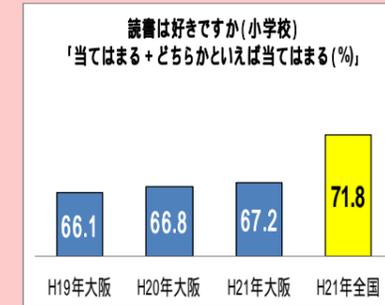
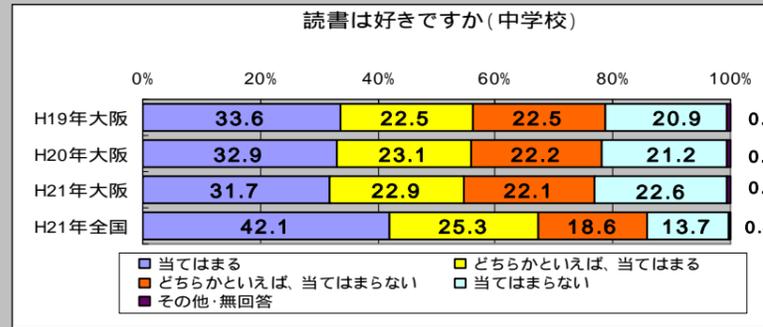
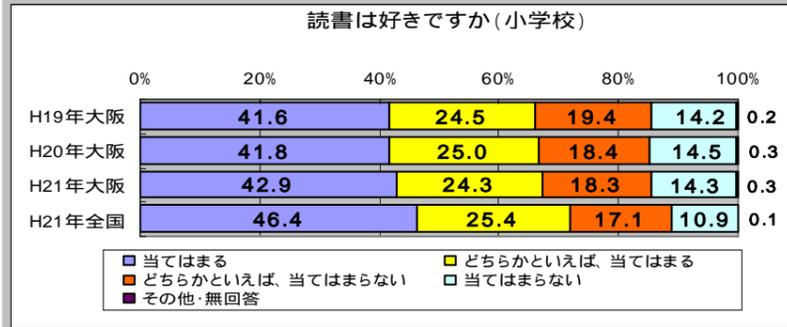
- ・読書が好きな子どもの割合や読書をする習慣が身につけている子どもの割合にはあまり増減が見られず、依然として全国と比べて低い。
- ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすることがあると考える子どもの割合が全国と比べて低い。
- ・算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活や自分の将来にむすびつけて考える子どもの割合が全国と比べてやや低い。

3 - 1 読書の好きさ

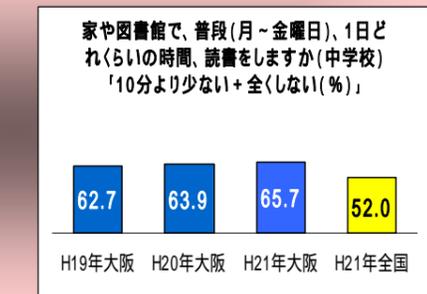
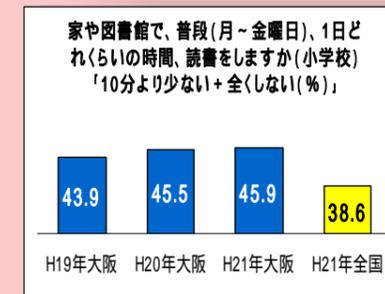
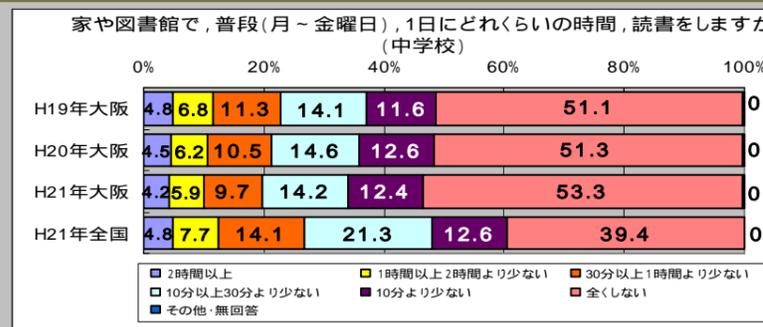
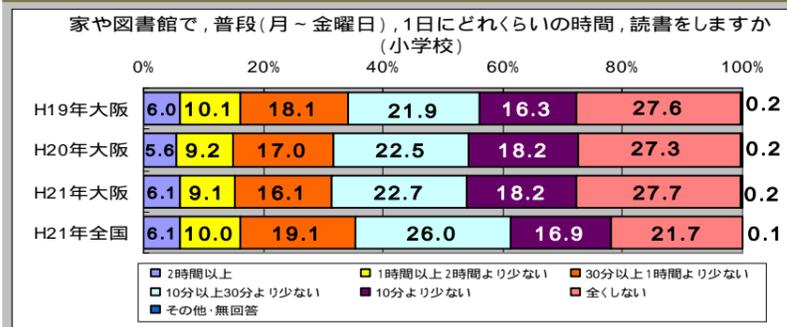
小学校

中学校

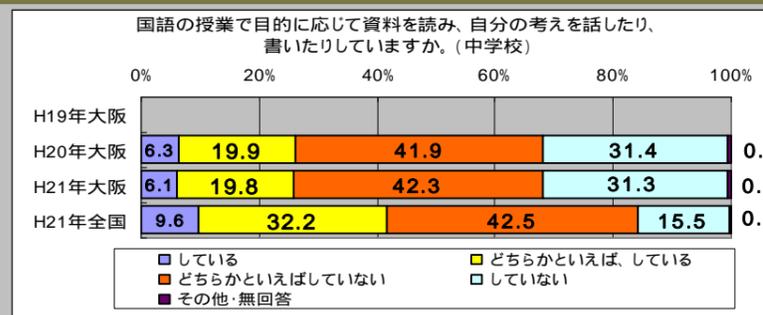
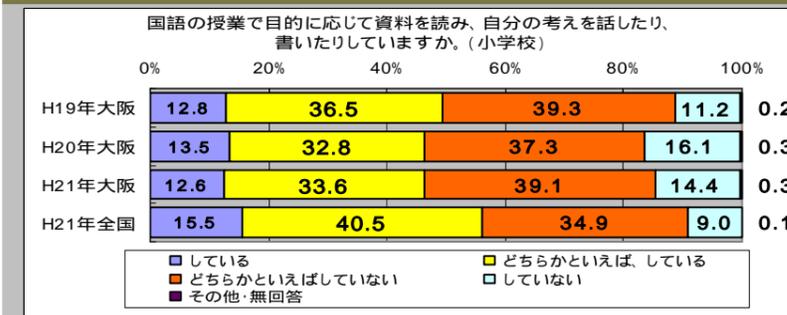
グラフの数値はすべて%表示



3 - 2 読書の時間



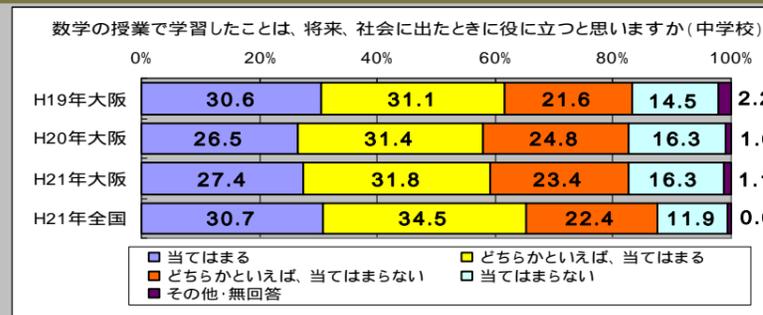
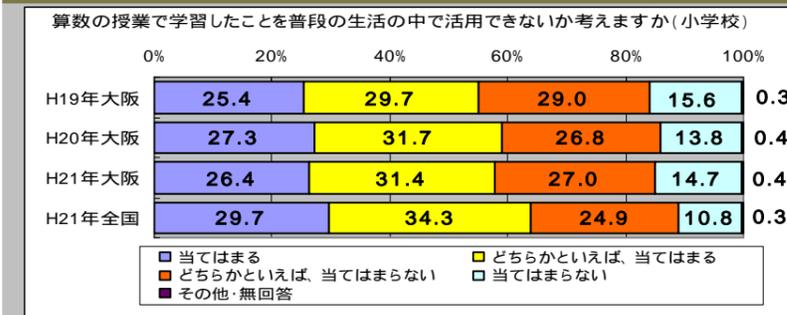
3 - 3 国語の授業について



国語の授業に対する意識

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていることについては、小中学校ともに全国に比べて低い。特に中学校では、その傾向が顕著に表れている。

3 - 4 算数の授業について



算数・数学の授業に対する意識

小学校において、算数の授業で学習したことを普段の生活で活用できないかを考える割合が全国に比べてやや低い。また、中学校において、数学の授業で学習したことが、将来社会に出たときに役立つと思う生徒の割合が同様に全国に比べてやや低い。

児童生徒に対する学校の見取り・児童生徒の状況(公立小・中学校) - 学校質問紙調査より - No.6

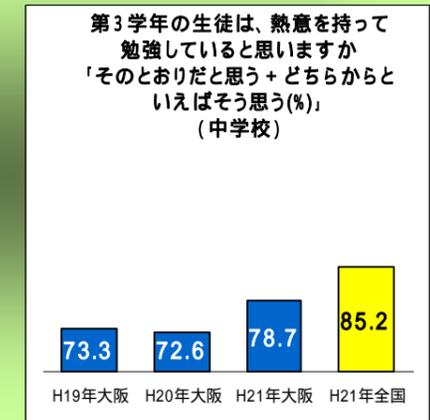
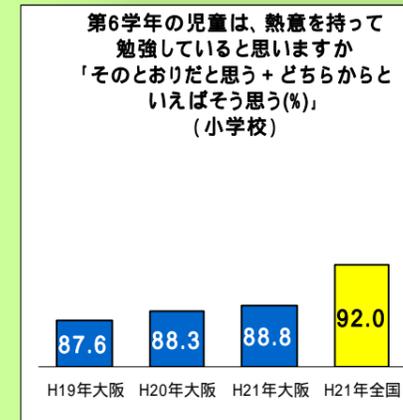
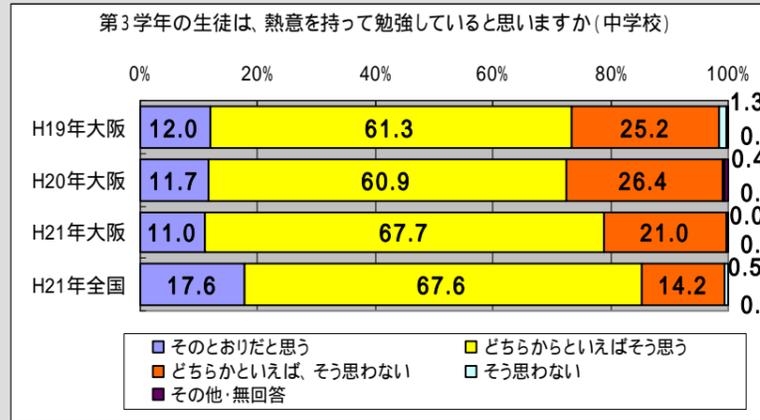
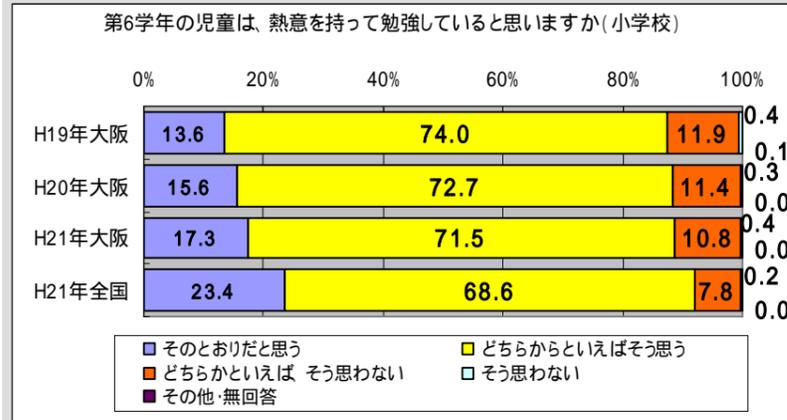
【学習への熱意・落ち着き・礼儀正しさ】
 ・小中学校とも、児童生徒が「熱意をもって勉強している」と捉えている学校の割合がやや増加傾向にあるが、依然全国を下回っている。
 ・中学校では、生徒が「授業中の私語が少なく落ち着いている」と捉えている学校の割合は全国に比べて低い傾向が続いている。
 ・児童生徒が「礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小中学校とも依然全国に比べて低い。

4-1 学習への熱意

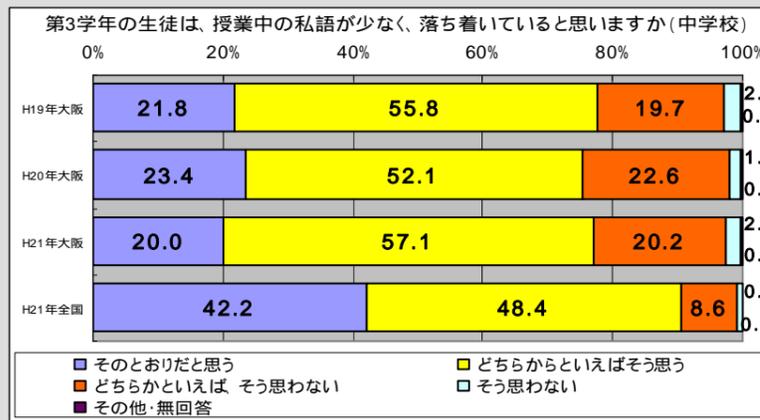
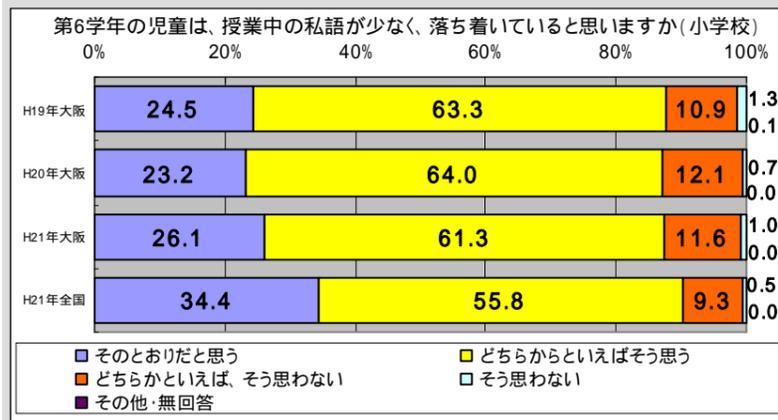
小学校

中学校

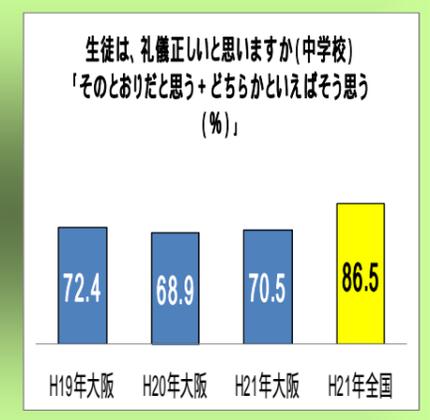
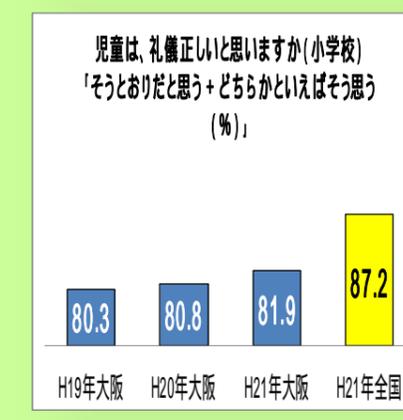
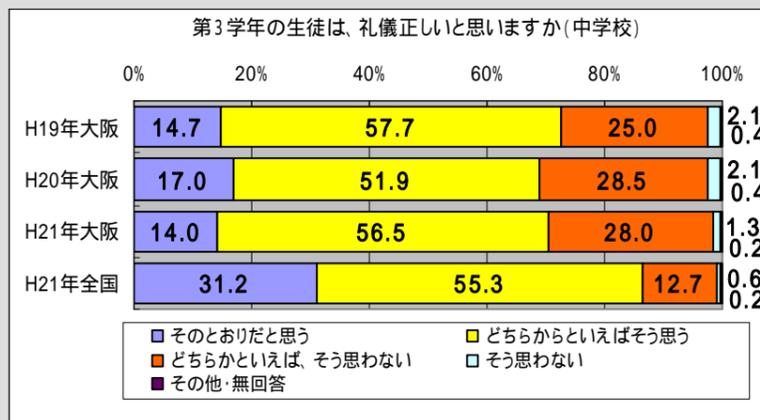
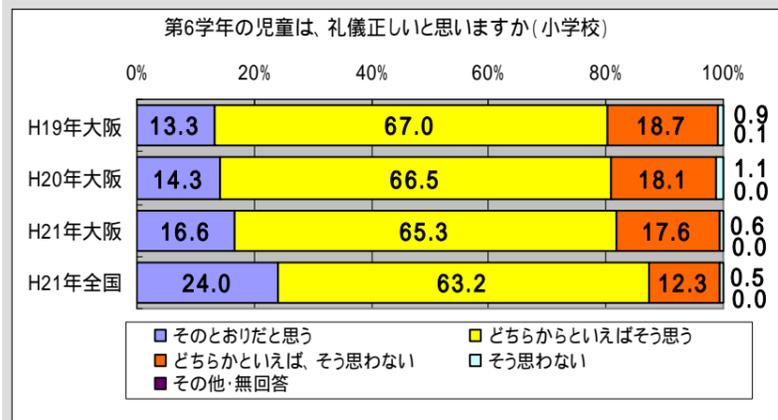
グラフの数値はすべて%表示



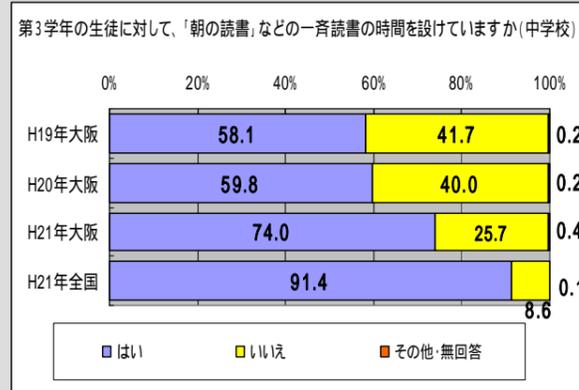
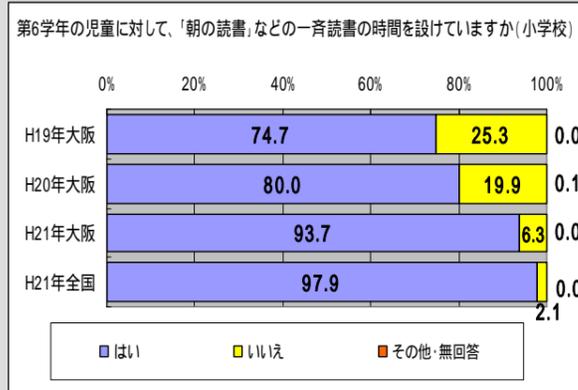
4-2 授業中の落ち着き



4-3 礼儀正しさ



学校の取り組み・学校の状況 - 学校質問紙調査より - No.7



【朝の読書・放課後学習】
 ・朝の読書や放課後の学習サポートは年々充実の傾向にある。特に中学校における放課後学習は全国を上回る実施率となっている。
【学校・保護者・地域の連携】
 ・ボランティア等による授業サポートは全国に比べ実施の割合が高い状況を継続している。
【就学援助状況】
 ・小中学校とも、就学援助を受けている児童生徒の在籍率の高い学校が多い傾向が継続している。
【教員の研修等】
 ・中学校での授業参観の回数が、全国に比べて少ない傾向が継続している。
 ・授業研究を伴う、校内研修の実施回数は、全国的にみると低いが、「全く実施していない」学校は減少してきている。

